

平成28年度 シラバス（国語）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	国語（国語総合）	単位数	5単位	学年（年次）	1 学年
使用教科書	『国語総合 現代文編』『国語総合 古典編』（大修館書店）				
副教材等	便覧：「カラー版 新国語便覧 新版三訂」（第一学習社） 古典文法：「基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版」（桐原書店）及び「同演習ノート 三訂版」 古文単語：「マドンナ古文単語230 パワーアップ版」（学研） 漢文句形：「必携 新 明説漢文」（尚文出版）及び「同ノート 修訂版」 漢字：「新 常用漢字必携 パーフェクトクリア」（尚文出版） 問題集：「基礎現代文 改訂版」「基礎古文 改訂版」「基礎漢文 改訂版」（尚文出版） 評論要約：「現代文100字要約ドリル 入門編」（駿台文庫）				

1. 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 指導の重点

生徒の殆どが大学・短大等への進学を希望していることから、入試に対応できる基礎学力の定着を図りつつ、次のことを重点とする。

①一人一人の生徒の実態に即して文法、語彙、文字、文章、漢字の書き取り等、言語に関する事項を整理して指導する。特に古典文法（用言・助動詞・敬語）および漢文句法は年間を通じて学び、基礎力を養う。

②近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を育成する。

③古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって、人生を豊かにする態度を育成する。

3. 学習計画（現代文）

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4・5	評論（1） 水の東西	①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・二項対立による論の進め方に着目し筆者の主張を読み取る ・工夫された表現の意図を理解する ・本文を要約する ・日本文化の特色を理解する	4	授業の取り組み 課題プリント 授業ノート 小テスト 定期考査
	5・6	小説（1） 羅生門	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・小説の舞台を的確に読み取る ・比喩表現についての的確に読み取る ・「下人」と「老婆」の行動を把握し、その心理を読み取る ・「老婆」の主張を的確に読み取る ・小説の主題について、自分なりに根拠を示して考察を文章にまとめる	9	
	6	評論（2） 空気を読む	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・筆者の主張を読み取る ・本文を要約する。 ・現代のコミュニケーションの考え方に 対する問題意識を深める。	6	
	7～10	詩 贅のうへ 一つのメルヘン 自分の感受性くらい	①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・音読によって詩のリズムや構成を把握する ・詩に用いられている表現技法やその効果を理解する ・詩の内容や背景について考察する ・鑑賞文を書き、発表する	6	
2	7～10	評論（3） 「美しさの発見」について	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・「発見」と「発明」の違いを把握する ・芭蕉、セザンヌ、芥川、川端のエピソードや引用文の効果を考える ・本文を要約する ・「美しさ」についての二つの考えを理解し、自分の考えをもつ	6	授業の取り組み 課題プリント 授業ノート 小テスト 定期考査
		小説（2） 鏡	①関心・意欲・態度 ④読む能力 ⑤知識・理解	・作者とその作品について調べる ・現代小説に親しむ ・場面や心情の変化を表現に即して読み	7	

					味わう		
	10 ・ 11	評論(4)	知識の扉—学ぶことの身体性	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・論理的な文章の構成を理解する ・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取る ・本文を要約する	6	
		小説(3)	とんかつ	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・会話と行動から、登場人物の心情や内面の変化を的確に読み取る ・人物や情景を形容する表現について、特徴や効果を理解する ・主題を考えながら感想をまとめる	7	
3	12 ～ 2	評論(5)	生きることと食べる ことの意味	①関心・意欲・態度 ④読む能力 ⑤知識・理解	・分子生物学の基本となる考え方を読み取る ・論理的な文章の構成を理解する。 ・本文の内容から表題の意味を考える	6	授業の取り組み 課題プリント
		小説(4)	城の崎にて	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・作者とその作品について調べる ・場面や心情の変化を表現に即して読み味わう ・「自分」のだけが体験がどのような過程を経て、人間の生死に対する感想に深まっていくかを考える ・主題を考えながら感想をまとめる	7	授業ノート 小テスト 定期考査
		短歌と俳句	短歌十五首 俳句十二句	①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・音読して歌や句のリズムを味わう ・作者について調べ、理解する ・それぞれの短歌や俳句に用いられている表現技法とその効果を理解し、情景や心情を読み取る ・鑑賞文を書き、発表する	6	

4. 課題・提出物等（現代文）

- ・各教材が終了した時点で、「課題プリント」を課す。
- ・教材によっては「ワークシート」を導入し、教材終了時に提出させる。
- ・必要に応じて学習ノート提出させる。
- ・週1回、漢字小テストを実施する。
- ・週末課題として、「現代文100時要約ドリル 入門編」を1題ずつ出題し、提出させる。
- ・長期休業には課題帳（「基礎現代文」）を課し、休み明けに提出させる。

5. 学習計画（古典）

学期(月)	単元名	教材	評価の観点	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
1	4 ・ 5	古文入門 ◇解析古典文法「古典文法入門」「活用のある自立語①」	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・音読により歴史的仮名遣いに慣れる ・傍訳と脚注を参考に現代語訳し、あらすじを理解する ・人物の行動や場面の描写を読み取る ・文法（品詞の種類、動詞の活用）を理解する ・古語辞典の引き方を理解する	7	授業の取り組み 課題プリント 授業ノート 小テスト 定期考査
		漢文入門 ◇新明説漢文第一章基礎編	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・訓点を理解して正しく音読する ・書き下しのきまりや漢文の基本構造を理解する ・再読文字、助字、置き字の用法を理解する ・格言や成句の意味を読み取る ・漢和辞典の使い方理解する	7	
	5 ・ 6	随筆 ◇解析古典文法「活用のある自立語②」「活用のある付属語①」	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・『徒然草』について文学史的な知識を得る ・現代語訳し、あらすじを理解する ・話の主題を理解する ・文法（動詞の活用、形容詞・形容動詞の活用、助動詞）を理解する	10	

		故事成語 ◇新明説漢文 第二章句法編 否定形・疑問 形・反語形	「矛盾」(韓非子) 「蛇足」(戦国策) 「朝三暮四」(列子)	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・訓読のきまりを理解した上で、書き下 しや現代語訳をする ・人物の関係や言動、比喩表現に注意し ながら内容を読み取る ・句法や助字、重要語を理解する ・故事成語の意味と由来を理解する	7	
2	7 ～ 10	物語・日記 ◇解析古典文 法「活用のある 付属語②」	「芥川」「東下り」 (伊勢物語)	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・『伊勢物語』について文学史的な知識 を得る ・現代語訳し、あらすじを理解する ・それぞれの場面における人物の心情 を読み取る ・和歌の修辞を理解し、和歌に託され た人物の心情を読み取る ・文法(助動詞の文法的意味と活用) を理解する	18	授業の取り組 み 課題プリント 授業ノート 小テスト 定期考査
		漢詩 ◇新明説漢文 第四章漢文基 礎知識編「漢詩 の規則」	「静夜思」「送元二使 安西」「春望」「香炉 峰下、新卜山居、草 堂初成、偶題東壁」	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・訓読のきまりを理解した上で、書き 下しや現代語訳をする ・句法や助字、重要語を理解する ・近体詩のきまりを理解する ・音読し、詩のリズムを味わう ・漢詩に込められた心情を理解する ・作者についての文学史的知識を得る ・漢詩の鑑賞文を作成し、発表する	10	
	10 ・ 11	物語・日記 ◇解析古典文 法「活用のある 付属語③」 随筆 ◇解析古典文 法「敬語」	「門出」「帰京」 (土佐日記) 「雪のいと高う降り たるを」(枕草子)	①関心・意欲・態度 ②話す能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・『土佐日記』『枕草子』について文学史 的な知識を得る ・現代語訳し、あらすじを理解する ・『土佐日記』の體化表現、機知的表現 を理解する ・「帰郷」において、隣人や亡くなった 女兒への作者の心情を読み取る ・中宮の問いかけに対する清少納言の行 動を理解する。 ・文法(助動詞の文法的意味と活用、敬 語)を理解する	10	
		古代の史話 ◇新明説漢文 第二章句法編 使役形・抑揚 形・比較形 唐代の詩文 ◇新明説漢文 第二章句法編 受身形	「先從隗始」 「鶏鳴狗盗」 (十八史略) 「雑説」(唐宋八家文 読本)	①関心・意欲・態度 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・訓読のきまりを理解した上で、書き 下しや現代語訳をする ・句法や助字、重要語を理解する ・時代背景や人物関係を理解しながら、 内容を読み取る ・「先從隗始」「鶏鳴狗盗」の意味と由来 を理解する ・「雑説」の論の展開や比喩を理解する	10	
3	12 ～ 2	軍記 ◇解析古典文 法「活用のある 付属語③」・「敬 語」 和歌・俳諧 ◇解析古典文 法「和歌の修辞 法」	「木曾の最期」 (平家物語) 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 「立石寺」(奥の細 道)	①関心・意欲・態度 ②話す能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・『平家物語』『万葉集』『古今和歌集』 『新古今和歌集』『奥の細道』につい て文学史的な知識を得る ・現代語訳し、あらすじを理解する ・木曾・巴・今井の人間関係と心情を読 み取る ・音便や歌のリズムを味わいながら音読 する ・和歌の形式や修辞を理解する ・歌に込められた心情を理解する ・『奥の細道』において、作者が旅に出 る動機を読み取る ・俳句に詠まれた心情を読み取る ・文法(助動詞の文法的意味と活用)	14	授業の取り組 み 課題プリント 授業ノート 小テスト 定期考査

					を理解する		
		孔子と孟子の思想 ◇新明説漢文 第二章句法編 詠嘆形・限定形・仮定形	「学問」「政治」	①関心・意欲・態度 ②話す能力 ③書く能力 ④読む能力 ⑤知識・理解	・訓読のきまりを理解した上で、書き下しや現代語訳をする ・句法や助字、重要語を理解する ・孔子の学問や政治に対する考え方を整理し、その意図を読み取る	1 2	

6. 課題・提出物等（古典）

- ・各教材が終了した時点で、「課題プリント」を課す。
- ・教材によっては「ワークシート」を導入し、教材終了時に提出させる。
- ・必要に応じて学習ノート提出させる。
- ・週1回、文法等小テストを実施する。
- ・週末課題（「基礎古文」「基礎漢文」）を課し、週初めに提出させる。
- ・長期休業には課題帳（「基礎古文」「基礎漢文」の「読解トレーニングノート」）を課し、休み明けに提出させる。

7. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したるするとともに、伝え合おうとしているか。	自分の考えをまとめたり深めたりしながら、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり性格に関き取ったりしていたか。	自分の考えをまとめたり深めたりしながら、目的に応じて、筋道を立てて適切に文章に書くことができたか。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりしていたか。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけたか。
① 学習への取り組み態度、課題の提出状況	② 発表や話し合いでの活動およびワークシートの記入内容等			
③ 定期考査、課題考査、ワークシートの記入内容等	④ 学習ノート、定期考査、課題考査、小テスト等			
⑤ 学習ノート、定期考査、課題考査、小テスト等				

8. 担当者から一言

- ・国語は、全ての教科の基礎となり、生活の基盤となる力を身につけるものである。自ら学ぶ姿勢をもって授業に参加すること。
- ・授業は予習を前提に進める。最低限以下のことは心がけること。
(現代文) 本文音読・意味調べ・要旨の確認等 (古 典) 本文音読・本文書写・意味調べ・現代語訳・書き下し文(漢文)等
- ・ノートは板書の書き写しではなく、自分なりの工夫を加えること。
- ・「国語総合」では、今後の「現代文」「古典」の学習の基礎を学ぶ。しっかり身につくまで、繰り返し復習すること。理解できないことについては遠慮なく質問すること。

教科(科目)	地理歴史(世界史A)	単位数	2単位	学年(年次)	3学年
使用教科書	山川出版社 現代の世界史				
副教材等	第一学習社 グローバルワイド最新世界史図表新版三訂				

1. 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 指導の重点

基本的な事項・事柄を精選し、生徒の理解力や興味・関心を考慮した指導内容を構成する。特に3学年を対象にしていることから、1・2学年時に履修した現代社会や日本史B、地理Bの内容と関連付け、地図や資料を多く活用しながら授業を展開していく。

3. 学習計画

学期(月)	単元名	教材	評価 の 観点	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
1	4 第2章 大航海時代 2 世界の一体化の 始まり 第5章 近代の欧米社会 1 イギリス産業革 命	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・大航海時代の背景および展開を理解するとともに、大航海と植民が世界各地に変容をもたらした、世界を一体化させた点について考察する。 ・イギリス産業革命の背景や技術革新をおさえ、社会の産業化と国民国家形成が相互に関連したことを探究する。	6	授業態度 質疑応答 課題
	5 第5章 近代の欧米社会 2 アメリカ独立革 命 6 南北アメリカの 道 第6章 ヨーロッパの進出 と アジア 1 バルカン・西ア ジア社会の動き	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・アメリカ独立革命の歴史的背景、経過、結果 ・影響について考察する。・南北戦争の意義と戦後のアメリカ合衆国の発展、および国内の人種・民族問題について考察する。 ・オスマン帝国の衰退と、オスマンの支配下にあったアラブ人の自立化の動きについて考察する。 ・ヨーロッパの圧力を受けたエジプトとイランの状況、およびナショナリズム運動の展開について考察する。	7	授業態度 質疑応答 課題 小テスト
	6 第6章 ヨーロッパの進出 と アジア 2 インド・東南ア ジアの植民地化 3 東アジアの変動 4 世界史のなかの 近代日本	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・インドや東南アジアが経済・政治・社会の各方面でヨーロッパの影響を強く受けた点について探究し、ナショナリズム運動の展開について考察する。 ・アヘン戦争やアロー戦争の結果、新しい国際関係が成立し、中国の伝統的秩序が解体に向かった点について考察する。 ・明治維新後の日本の近代化が清や朝鮮といった周辺国にどのような影響を与えたかについて探究する。	8	期末考査 授業態度 質疑応答 課題

1							
	7	第8章 帝国主義とアジアの 民族運動 1 欧米による世界 の分割と植民地化		① ② ③ ④	・技術革新により工業化を進展させた欧米列強 が帝国主義政策を推し進めた結果、世界の一体 化が進展した点について探究する。 ・欧米列強によるアジア・アフリカおよび太平 洋地域の分割の展開と、 列強同士の協調・対立関係について考察する。	6	授業態度 質疑応答 課題
2	8 ・ 9	第8章 帝国主義とアジアの 民族運動 2 民族運動と列強 の対立 第9章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦 とロシア革命	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・清代末期の中国で、清朝打倒と新国家樹立を 目指す革命運動がどのように展開したかについ て考察する。 ・欧米の帝国主義的進出に対抗すべく、アジア ・アフリカ各地で民族運動が展開された点につ いて考察する。 ・第一次世界大戦の帝国主義的性格について考 察し、第一次世界大戦の経過と影響について探 究する。 ・ロシア革命の経過と国内外の状況、およびソ ヴィエト連邦の社会主義政策の特色について考 察する。	8	授業態度 質疑応答 課題
	10	第9章 二つの世界大戦 2 ヴェルサイユ体 制と欧米諸国	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・ヴェルサイユ・ワシントン両体制下で、日本 が列強の仲間入りを果たした点について探究す る。 ・第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国の動向に ついて、ドイツとフラン スの関係を軸に考察する。	7	授業態度 質疑応答 課題 小テスト
	11	第9章 二つの世界大戦 3 民族主義の新展 開 4 世界恐慌とファ シズム	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・日本の大陸進出・植民地支配に対し、中国・ 朝鮮で民族運動が高揚した点について探究する 。 ・トルコ、インドなどの民族運動が大衆的基盤 を持ち、新しい潮流となった点について考察す る。 ・世界恐慌の背景と各国の対応策の相違につい て考察し、世界恐慌が情勢を戦争へと一変させ た点について探究する。 ・世界恐慌を背景に台頭したファシズム・ナチ ズム・日本軍部の固有の動きについて考察する 。 ・日本の中国侵略（満州事変、日中戦争）が中 国の政治に新しい動きをもたらした点について 探究する。	8	授業態度 質疑応答 課題
	2	第9章 二つの世界大戦 5 第二次世界大戦	教科書 副教材 プリント	① ② ③	・第二次世界大戦の開戦に至る過程、戦争の拡 大、総力戦体制の深化、占領地政策、核兵器に よる被害などをふまえ、戦争の複雑な性格と戦	7	期末考查 授業態度 質疑応答

	12	第10章 冷戦の時代 1 冷戦の形成と第三世界の登場	写真	④	争責任のあり方について探究する。 ・国際連合の構想から成立までの過程について考察するとともに、国際連合の特色を国際連盟と比較して探究する。		課題
	1	第10章 冷戦の時代 1 冷戦の形成と第三世界の登場 2 核戦争の危機 3 多極化と緊張緩和	教科書 副教材 プリント 写真		・冷戦の進行による集団安全保障体制の成立について考察する。 ・アジア・アフリカが第三勢力としての発言権を持ち、冷戦の緩和と脱植民地支配に大きく貢献した点について探究する。 ・中ソ対立やチェコ事件を通して戦後体制が動揺し、世界が多極化に向かった点について考察する。	7	授業態度 質疑応答 課題
3	2	第10章 冷戦の時代 4 冷戦の変質 5 冷戦の終焉 6 冷戦下の日本 第11章 グローバル化する世界	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・ベトナム戦争によりアメリカ合衆国主導の国際通貨体制が動揺し、変動相場制に移行した点について考察する。 ・イスラーム世界の動向と石油危機、およびそれらに対応する先進国の動向について考察する。 ・ソ連の改革（ペレストロイカ）、東欧革命、冷戦終結の流れを考察し、ソ連の解体について探究する。 ・冷戦終結後、グローバル化による世界の一体化が加速する中で、文化や価値観の多様性を唱える人々の抵抗がさまざまな形で発生している点について探究する。	6	期末考査 授業態度 質疑応答 課題

4. 課題・提出物等

- ・各項目の内容をより良く理解するため、課題プリントを宿題として課し、提出させる。
- ・授業の中で小テストを行い、理解度を確認する。

5. 評価基準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
世界の歴史や諸地域の諸問題に関心を持ち、意欲的に追求しているか。	世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し、適切に表現できるか。	収集した諸資料を、客観性にも配慮した上で適切に取捨選択できるか。	人類の歩みを理解し、現代社会が抱える諸問題の背景を理解しているか。
授業中の質疑応答の内容を中心とする授業への取り組みや課題内容への理解、定期考査を勘案して総合的に評価する。			

6. 担当者から一言

世界史Aの本来の目的である近現代史を中心に、2つの世界大戦および大戦後の世界について、日本との関わりの中で考えていく。特に近年の日本とアジア諸国との関係がより一層深まっている現状と、それまでに至る歴史を考察していくことができればと考えている。

教科(科目)	地理歴史(世界史B)	単位数	5単位	学年(年次)	2学年文系選択
使用教科書	東京書籍 世界史B				
副教材等	第一学習社 グローバルワイド最新世界史図表新版三訂 東京書籍 要点マスター世界史B確認問題集				

1. 学習目標

基本的な事項を精選し、生徒の理解力や興味、関心を考慮した指導内容を構成する。特に歴史事象を並べるだけでなく、歴史の流れや事象が発生する背景などに留意し、歴史の展開やつながりのなかでの出来事であることを意識させ、現代の国際社会に生きる行動指針を得られるように歴史的思考力を養う。

2. 指導の重点

風土・宗教・民族などに着目させながら、ユーラシアを中心に形成された諸地域世界の特徴を把握させる。また、諸地域相互の交流に触れ、世界の一体化につながる交流圏の成立に気づかせる。

3. 学習計画

学期(月)	単元名	教材	評価の観点	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
1	4 序章 文明以前の人類 第1章 オリエント世界と 東地中海世界 第2章 地中海世界と西ア ジア	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・先史時代の学習を通じて、人類の発達過程について理解する。 ・農耕・牧畜の開始が人類に与えた影響について考察する。 ・オリエント世界の統一の経過について理解する。 ・オリエント世界と比較し、ギリシアのポリス社会を理解する。 ・ヘレニズム文明の特徴について理解する。 ・ローマ共和政をアテネ民主政と比較して理解する。 ・ローマ帝国の世界史上における意義について理解する。 ・ゲルマン民族の大移動とその意義を理解する。 ・東ローマ帝国の隆盛と、ペルシアとの抗争について理解する。	13	授業態度 質疑応答 課題
	5 第3章 南アジア世界 第4章 東アジア世界	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・インドの諸宗教の成立経過と特色を理解する。 ・インドの諸王朝の特色とカースト制度がインド社会に与えた影響について学ぶ。 ・春秋戦国時代までの文明や社会の特色を理解する。 ・秦漢帝国で整備された統治組織が、その後の中国の国家体制の基本となったことを理解する。 ・魏晋南北朝の諸王朝の特色を学び、のちの隋・唐につながる体制の基礎が築かれたことを理解する。 ・隋・唐で成立した国家制度の特色と周辺諸国	16	中間考査 授業態度 質疑応答 課題

1	5	第5章 内陸ユーラシア世界 第6章 東南アジア世界 第7章 古アメリカ世界			への影響について考える。 ・トルコ、モンゴル民族を中心とする遊牧国家の特色と世界史上への影響について理解する。 ・トルコ民族の進出によるトルキスタンの成立とイスラーム化の進展の意義について考察する。 ・東南アジアの風土と諸王朝の変遷について、概要を把握する。 ・南北アメリカの諸文明の特色について考える。		
	6	第8章 イスラーム世界の形成 第9章 ヨーロッパ世界の形成	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・イスラーム教の特色について理解する。 ・イスラーム帝国成立の背景と意義を理解する。 ・イスラーム帝国の領土の拡大と支配の変化について考察する。 ・インド、アフリカのイスラーム化の契機とその後の社会や文化への影響について考察する。 ・イスラーム文明の特色と意義について学ぶ。 ・ビザンツ帝国の特色と歴史的意義を、東ヨーロッパのスラヴ人国家と関連づけて学ぶ。 ・フランク王国の発展の理由をローマ＝カトリック教会と関連づけ、王国の分裂の意義について考察する。 ・封建制度の成立の経過と意義について考察する。 ・中世都市や商業の発達について学ぶ。 ・十字軍の背景と、西ヨーロッパに与えた影響について考察する。 ・ヨーロッパの中世文化とキリスト教との関わりを理解する。 ・教皇権、教会勢力の衰退の原因を考えるとともに、中央集権国家への歩みについて地域別に学ぶ。 ・ルネサンスの背景と意義を理解し、代表的人物や作品を整理する。	16	期末考査 授業態度 質疑応答 課題
		第10章 東アジア世界の変容とモンゴル帝国	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・宋の成立および東アジア諸勢力の変遷と自立化について学ぶ。 ・モンゴル帝国の成立と発展について学ぶ。 ・モンゴル時代の東西交流について学ぶ。 ・元の中国支配の特色について理解する。	12	授業態度 質疑応答 課題

1	7	第11章 海域世界の発展 第12章 ユーラシア諸帝国 の 繁栄			・南シナ海・インド洋・地中海を結ぶ交易の発展について、ムスリム商人が果たした役割について理解する。 ・アジアの諸王朝が海上交易への参入を進めたことにより、海域世界が著しく発展したことを理解する。 ・ティムール朝とサファヴィー朝について学ぶ。 ・オスマン帝国の発展を学び、ヨーロッパとの関係について考察する。 ・インドのムガル帝国の発展と分裂について理解する。 ・明の皇帝権強化がどのようにして進められたのか理解する。 ・朝貢体制の成立や北虜南倭について理解する。 ・異民族支配である清の中国統治の特色を学ぶ。 ・清代の隣接諸地域の動向について理解する。		
2	8・9	第13章 大交易時代 第14章 近世のヨーロッパ	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・大交易時代の背景と、ヨーロッパ社会やアジア社会にもたらした変容について理解する。 ・ルターとカルヴァンの宗教改革の特色を学ぶ。 ・宗教改革の政治、社会上の影響について学ぶ。 ・主権国家体制の成立過程と各国の絶対王政の特色を理解する。 ・オランダの独立と商業覇権の確立について理解する。 ・イギリスの市民革命の経過と意義について理解する。 ・フランス絶対王政の展開について理解する。 ・各国の重商主義政策を整理するとともに、戦乱によるドイツの停滞について学ぶ。 ・啓蒙専制主義の特色を理解し、プロイセンとロシアの台頭について学ぶ。 ・近世ヨーロッパの・芸術・文化の特徴、科学と哲学等の発達について整理し理解する。 ・大西洋三角貿易の特徴をおさえ、英仏植民地戦争の経過と結果について理解する。	19	課題テスト 授業態度 質疑応答 課題

2	10	第15章 欧米における工業化 と国民国家の形成	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・産業革命の背景や技術革新をおさえ、社会の産業化と国民国家形成が相互に関連したことを理解する。 ・アメリカ独立革命の歴史的背景、経過、結果・影響を理解する。 ・ラテンアメリカ諸国の独立について、アメリカ独立革命・フランス革命と関連づけて理解する。 ・フランス革命・ナポレオン戦争がどのような段階を経て進展し、国民国家成立につながったかを理解する。 ・ウィーン体制下にヨーロッパ各地やラテンアメリカで進展した自由主義・国民主義運動について考察する。	18	中間考査 授業態度 質疑応答 課題
	11	第16章 産業資本主義の発展 と帝国主義	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・ロシアにおける近代化政策の挫折、およびイタリヤ・ドイツにおける統一国家の形成について考察する。 ・19世紀にイギリスが自由貿易体制を確立して世界経済の覇権を握った点について探究する。 ・南北戦争の意義と戦後のアメリカ合衆国の発展、および国内の人種・民族問題について考察する。 ・技術革新により工業化を進展させた欧米列強が帝国主義政策を推し進めた結果、世界の一体化が進展した点について探究する。 ・ヨーロッパ列強によるアフリカ分割と、その対応としての民族運動の展開について考察する。	15	授業態度 質疑応答 課題
	12	第17章 アジア諸地域の変革 運動	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・オスマン帝国の衰退と、オスマンの支配下にあったアラブ人の自立化の動きについて考察する。 ・ヨーロッパ列強の圧力を受けたエジプトとイランの状況、およびナショナリズム運動の展開について考察する。 ・インドや東南アジアが経済・政治・社会の各方面でヨーロッパの影響を強く受けた点について探究し、ナショナリズム運動の展開について考察する。 ・アヘン戦争やアロー戦争の結果、新しい国際関係が成立し、中国の伝統的秩序が解体に向かった点について考察する。 ・明治維新後の日本の近代化が清や朝鮮といっ	13	期末考査 授業態度 質疑応答 課題

					た周辺国にどのような影響を与えたかについて探究する。 ・清代末期の中国で、清朝打倒と新国家樹立を目指す革命運動がどのように展開したかについて考察する。		
3	1	第18章 世界戦争の時代	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・第一次世界大戦の帝国主義的性格について考察し、第一次世界大戦の経過と影響について探究する。 ・ロシア革命の経過と国内外の状況、およびソヴィエト連邦の社会主義政策の特色について考察する。 ・ヴェルサイユ・ワシントン両体制下で、日本が列強の仲間入りを果たした点について探究する。 ・アメリカ合衆国が第一次世界大戦後、イギリスにかわり世界経済の中心となった点について考察する。 ・第一次世界大戦後のヨーロッパ諸国の動向について、ドイツとフランスの関係を軸に考察する。 ・トルコ、インドなどの民族運動が大衆的基盤を持ち、新しい潮流となった点について考察する。 ・日本の大陸進出・植民地支配に対し、中国・朝鮮で民族運動が高揚した点について探究する。 ・世界恐慌の背景と各国の対応策の相違について考察し、世界恐慌が情勢を戦争へと一変させた点について探究する。 ・世界恐慌を背景に台頭したファシズム・ナチズム・日本軍部の固有の動きについて考察する。 ・日本の中国侵略（満州事変、日中戦争）が中国の政治に新しい動きをもたらした点について探究する。 ・第二次世界大戦の開戦に至る過程、戦争の拡大、総力戦体制の深化、占領地政策、核兵器による被害などをふまえ、戦争の複雑な性格と戦争責任のあり方について探究する。	14	授業態度 質疑応答 課題
	1	第19章 国民国家体制と東西の対立	教科書 副教材 プリント	① ② ③	・国際連合の構想から成立までの過程について考察するとともに、国際連合の特色を国際連盟と比較して探究する。	15	学年末考査 授業態度 質疑応答

3	2		写真	④	・冷戦が進行する過程と核拡散の脅威について考察する。 ・冷戦の進行による集団安全保障体制の成立について考察する。 ・アジア・アフリカが第三勢力としての発言権を持ち、冷戦の緩和と脱植民地支配に大きく貢献した点について探究する。 ・中華人民共和国の成立がアジア諸国に与えた影響について探究する。 ・中ソ対立やチェコ事件を通して戦後体制が動揺し、世界が多極化に向かった点について考察する。 ・ベトナム戦争によりアメリカ合衆国主導の国際通貨体制が動揺し、変動相場制に移行した点について考察する。 ・イスラーム世界の動向と石油危機、およびそれらに対応する先進国の動向について考察する。 ・ソ連の改革（ペレストロイカ）、東欧革命、冷戦終結の流れを考察し、ソ連の解体について探究する。		課題
3	3	終章 経済のグローバル化 と新たな地域秩序	教科書 副教材 プリント 写真	① ② ③ ④	・冷戦終結後、グローバル化による世界の一体化が加速する中で、文化や価値観の多様性を唱える人々の抵抗がさまざまな形で発生している点について探究する。 ・冷戦終結後に頻発した地域紛争の背景（宗教的対立や民族的対立）について考察し、平和構築に向けての取り組みについて探究する。 ・科学技術の発達が地球環境に与えた影響について、歴史的経緯を踏まえながら考察し、課題解決に向け地球市民の一人としてどう行動すべきかを探究する。	5	授業態度 質疑応答

4. 課題・提出物等

- ・学習の定着をはかるため、定期的にプリントや副教材を提出させ、各項目の内容の理解をはかる。
- ・夏季休業後に課題テストを行う。
- ・過去の模擬試験問題を利用して応用力を養う。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
世界の歴史や諸地域の諸問題に関心を持ち、意欲的に追求して	世界の構造や成り立ちを歴史的視野から考察し、適切に表現	収集した諸資料を、客観性にも配慮した上で適切に取捨選択で	人類の歩みを理解し、現代社会が抱える諸問題の背景を理解し

いるか。	できるか。	きるか。	ているか。
定期考査の点数を基本とし、授業態度などの授業への取り組み、課題の提出状況と内容などから総合的に判断する。			

6. 担当者から一言

世界史学習の授業展開において、事象や単語だけの暗記というのではなく、なぜそうなるのかということを学習してもらいたい。また、それを説明できる能力も身につけてもらいたい。
--

平成28年度 シラバス（地理歴史）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	地理歴史（日本史A）	単位数	2単位	学年（年次）	3学年 文系選択
使用教科書	日本史A（東京書籍）				
副教材等	担当者作成授業プリント				

1. 学習目標

1. 近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち、日本を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させる。
2. 歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2. 指導の重点

我が国の近現代史の展開について、時代ごとに追求する学習を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。まずは、基礎・基本の土台作りを重視して授業を行う。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4 第1章国際環境の変化と明治維新 1 19世紀世界の動向と日本	教科書 プリント	①③④	・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を考察する。	6	授業態度 課題提出
	5 2 開国と倒幕 3 明治新政府の諸改革と社会の変化 4 明治初期の外交と反政府運動	教科書 プリント	①③④	・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。	9	授業態度 課題提出
	6 第2章近代国家の成立と国際関係の推移 1 自由民権運動の展開 2 立憲体制の成立	教科書 プリント	①②④	・欧米の文化・思想の導入と一連の近代化政策に対する反動としての士族反乱・農民一揆の失敗と、言論による要求実現への転換を理解する。	8	授業態度 課題提出
	7 3 日清戦争と国際関係	教科書 プリント	①②④	・東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程を考察する。	6	期末考査 授業態度 課題提出
2	8 4 日露戦争前後の世界と日本	教科書 プリント	①②③④	・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化を諸外国の動向と関連付けて考察する。	2	授業態度 課題提出
	9 第3章両大戦をめぐる国際情勢と日本 1 帝国日本と第一次世界大戦 2 政党政治と大衆文化	教科書 プリント	①②③④	・第一次世界大戦前後の政治の動向について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。	8	授業態度 課題提出
	10 3 軍国主義への道	教科書 プリント	①②④	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。	6	授業態度 課題提出
	11 4 太平洋戦争と日本	教科書 プリント	①③④	・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、考察する。	7	期末考査 授業態度 課題提出
3	12 第4章現代世界と日本 1 近代世界の開幕と日本の戦後処理	教科書 プリント	③④	・日本国憲法が制定された経緯と意味を考察する。	5	授業態度 課題提出
	1 2 戦後世界と日本	教科書	③④	・連合国による日本占領の終結と、その	6	授業態度

			プリント		後の日米関係について考察する。		課題提出
	2		教科書 プリント	③④	・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、考察する。	4	授業態度 課題提出
	3	まとめと演習	教科書 プリント	③④	・高度成長が終焉し、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を考察する。	3	授業態度 課題提出

4. 課題・提出物等

授業プリントを定期的に提出させ、ノートづくりに対する助言や指導を行う。単元を復習するためのレポートや問題集を課題とし、提出する。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用・技能	④知識・理解
日本の近現代史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及しているか。レポートの提出によって評価する。	日本の近現代史の展開から課題を見出し、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察できているか。定期考査やレポートの提出によって評価する。	諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしているか。発問に対する応答や授業プリントの提出によって評価する。	基本的な事柄を、国際環境と関連付けて理解し、その知識を身につけているか。定期考査で評価する。
定期考査の点数を基本として、授業態度などの授業への取り組み、課題の提出状況と内容などから総合的に判断する。			

6. 担当者から一言

まずは、基本的な事項の理解を徹底的に行います。基礎・基本の土台作りをしっかりと行った上で、応用理解への発展を目指します。授業を通して、お互いに日本史を学ぶ楽しさを味わいましょう。

平成28年度 シラバス（地理歴史）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	地理歴史（日本史B）	単位数	5単位	学年（年次）	2学年 文系選択
使用教科書	詳説日本史（山川出版社）				
副教材等	最新日本史図表（第一学習社）、日本史重要語句チェックリスト（啓隆社）、 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店）				

1. 学習目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 指導の重点

我が国の歴史の展開について、時代ごとに追求する学習を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。
まずは、基礎・基本の土台作りを重視して授業を行う。さらにセンター試験に対応できる基礎・基本となるポイント指導にも力を入れる。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	教科書 副教材 プリント	①②③④	・考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ・古墳の形状や大きさの変化など埋葬施設の変容からヤマト政権と各地の政治勢力の関係を考察する。	16	授業態度 課題提出
	5 第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安王朝の形成	教科書 副教材 プリント	②③④	・大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制について理解する。	15	中間考査 授業態度 課題提出
	6 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治 2 国風文化 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	教科書 副教材 プリント	②④	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ・蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。	21	授業態度 課題提出
	7 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	教科書 副教材 プリント	①②④	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。	11	期末考査 授業態度 課題提出
2	8 第6章 幕藩体制の成立 1 織豊政権	教科書 副教材 プリント	②③④	・鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察する。	4	授業態度 課題提出
	9 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	教科書 副教材 プリント	①②③④	・武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確率過程を考察する。	20	授業態度 課題提出
	10 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化	教科書 副教材 プリント	②④	・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて理解する。	16	中間考査 授業態度 課題提出

	11	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	教科書 副教材 プリント	①③④	・幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ・学問・思想・教育などの新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	19	期末考査 授業態度 課題提出
3	12	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達 第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制	教科書 副教材 プリント	①②③④	・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力のいっそうに至るまでの経過を理解する。 ・東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について考察する。	13	授業態度 課題提出
	1	3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革	教科書 副教材 プリント	②④	・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国会体制の進展を考察する。	15	授業態度 課題提出
	2	2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ	教科書 副教材 プリント	①②④	・独立後の日本国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。	19	授業態度 課題提出 学年末考査
	3	第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会動揺	教科書 副教材 プリント	②③④	・冷戦体制の終結とそれにかかわる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	6	授業態度 課題提出

4. 課題・提出物等

授業プリントを定期的に提出させ、ノートづくりに対する助言や指導を行う。単元を復習するためのレポートや問題集を課題とし、提出する。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用・技能	④知識・理解
授業に積極的に参加し、授業プリントの作成にも創意工夫が見られるか。ノートを提出させ評価する。	どの解釈や歴史叙述が妥当性を持つのかを判断できたか。発問に対する応答や定期考査で評価する。	資料から必要な情報を適切に読み取れたか。発問に対する応答や定期考査で評価する。	情報や既習知識を組み合わせ、因果関係を考察できたか。定期考査で評価する。
定期考査の点数を基本として、授業態度などの授業への取り組み、課題の提出状況と内容などから総合的に判断する。			

6. 担当者から一言

「過去に目を閉ざす者は、現在に盲目になる。」(ヴァイツゼッカー元ドイツ大統領)の言葉は、歴史を学ぶ意義を見いだすヒントとなるのではと考えます。日本史Bの授業は、まず基本的な事項の理解を徹底的に行います。基礎・基本の土台作りをしっかりと行った上で、応用理解への発展を目指します。授業を通して、お互いに日本史を学ぶ楽しさを味わいましょう。

教科 (科目)	地理歴史 (地理A)	単位数	2 単位	学年 (年次)	3 学年 文系選択
使用教科書	高等学校新地理A初訂版 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)				
副 教 材 等	「新詳地理資料COMPLETE」(帝国書院) 高等学校新地理Aノート (帝国書院)				

1. 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 指導の重点

大学進学を目指す生徒には、大学入試センター試験に対応しうる学力を身に付けさせる。社会に出る上での一般教養として、多様性に富む世界各地の様相や異文化を認識し、理解する力を身に付けさせる。

3. 学習計画

学期 (月)		単元名	教材	評価の観点	学習活動 (指導法)	時間	評価法
1	4	1部 私たちの地球をみつめる 1章 球面上の世界と地域構成	教科書、資料集、地図帳	③④	地球儀と地図の見方を学び、地表の陸海分布や緯度・経度の概念を理解する。時差の計算方法を学ぶ。国家の領域や地域区分の概念を理解する。	10	授業への取り組み、質疑応答、作業プリント
	5	1 私たちの星、地球 2 地表面の捉え方と球面上の位置 3 球面と平面の世界 4 世界地図の種類と特徴 5 時差の求め方 6 国家と地域区分					
	6	2章 結びつく現代世界 1 結びつきを強める現代世界 2 世界を結ぶ交通 3 世界を一つに結ぶ通信 4 国際化する人々の移動 5 拡大する世界の貿易		③④	交通・通信・移動に関する資料を通して、世界諸地域間の結びつきを考察する。	20	
	7	2部 さまざまな地域の生活と環境 1章 人間生活をとり巻く環境 1 生活に影響を与える環境条件 2 人々の生活と地形 3 人々の生活と気候 4 人々の生活と社会環境		① ②③	世界の地形や気候についてその成り立ちや人々の生活への影響について学ぶ。		
2	8	2章 世界の諸地域の生活・文化 1 中国の生活・文化 2 東南アジアの生活・文化 3 インドの生活・文化	教科書、資料集、地図帳	① ③④	中国、東南アジア、インドの自然・文化、課題について学ぶ。	20	授業への取り組み、質疑応答、作業プリント
	9	① ③④		中央アジア・西アジア、アフリカの自然・文化、課題について学ぶ。ヨーロッパ、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアの自然・文化、課題について学ぶ。			
	10	① ③④		中央アジア・西アジア、アフリカの自然・文化、課題について学ぶ。ヨーロッパ、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オーストラリアの自然・文化、課題について学ぶ。			
	11	① ②④		世界の人口・食糧問題の起る背景、具体的事象と解決への取り組みを探る。	10		
	12	① ②④		世界の人口・食糧問題の起る背景、具体的事象と解決への取り組みを探る。			
3	1	4 世界の都市・居住問題 5 世界の資源・エネルギー問題	教科書、資料集	① ②④	世界の都市・居住問題、資源・エネルギー問題の起る背景、具体的事象と解決への取り組みを探る。		授業への取り組み、質疑応答、作業プリント

	2	6 世界の環境問題	料集、 地図帳		る。世界の環境問題の起きる背景、具体的事象と 解決への取り組みを探る	10	業プリント
	3						

4. 課題・提出物等

理解を深めるための作業プリントや長期休暇中を利用した課題・レポート作成等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③資料活用 の技能・表現	④知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けるとともに、追究した過程や結果を適切に表現する。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
関心・意欲・態度、思考・判断、資料の活用 の技能・表現、知識・理解を評価の観点とし、授業中の質疑応答の内容を中心として授業への取り組みや課題内容への理解や提出状況、定期考査等を勘案して総合的に評価する。			

6. 担当者から一言

わかりやすい授業、大学受験に対応できる授業を心がけます。何事も準備が大切です。予習はもちろん、来るべき受験に備え、実力をコツコツと蓄積していく一時間一時間と捉えて授業を受けてください。また、社会事象に広く興味関心を持ち、自分自身の視野を広げ、世界の諸問題について幅広い見方や考察ができる力を養いましょう。
--

平成 28 年度 シラバス（地理歴史）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	地理歴史（地理B）	単位数	4 単位	学年（年次）	2 学年 理系選択
使用教科書	「新詳地理B」（帝国書院）「新詳高等地図」（帝国書院）				
副教材等	「データブックオブザワールド 2016 世界各国要覧と最新統計」（二ノ宮書店）新編地理資料 2016（東京法令出版）「ウィニングコンパス地理の整理と演習 2016」（東京法令出版）				

1. 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2. 指導の重点

大学進学を目指す生徒には、大学入試センター試験に対応しうる学力を身に付けさせる。社会に出る上での一般教養として、多様性に富む世界各地の様相や異文化を認識し、理解する力を身に付けさせる。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4 第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 1節 現代世界の地図 2節 地図の種類とその利用 2章 地図の活用と地域調査	教科書、資料集、 地図帳	①②③	さまざまな地図の成り立ちや特徴、用途を学ぶ。 天体としての地球という観点から、地球と太陽との関係性やそれが与えるさまざまな自然現象について学ぶ。	8	授業への取り組み、質疑応答、プリント
	5 第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 1節 世界の地形 2節 世界の気候 3節 日本の自然の特徴と人々の生活 4節 環境問題		①②③	世界の地形についてその成り立ちや人々の生活への影響について学ぶ。世界の気候についてその成り立ちや人々の生活への影響について学ぶ。 現代世界における環境問題について学ぶ。	14	
	6 2章 資源と産業 1節 産業の発達と変化 2節 世界の農林水産業 3節 食料問題 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題		①②③	世界の農業について自然環境・社会環境との関わりや人々の生活への影響、食料問題について学ぶ。 世界の資源・エネルギー問題について自然環境・社会環境との関わりや南北問題・環境問題とのつながりを含めて学ぶ。	14	
	7 6節 世界の工業 7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信 9節 現代世界の貿易と経済圏		①②③	世界の工業について自然環境・社会環境との関わりについて学ぶ。 世界の交通・通信・貿易について、事例から学ぶ。	8	
2	8 9 3章 人口、村落・都市 1節 世界の人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題	教科書、資料集、 地図帳	①②③④	世界の人口問題や村落の成り立ちについて学ぶ。 村落の成り立ちや都市の特徴、機能について学ぶ。 世界各国、各地域の衣食住について、自然環境や民族性、宗教との関係性から学ぶ。 民族問題の歴史的背景や現在起こる民族・領土問題について日本も取り上げて正しい知識を学ぶ。	20	授業への取り組み、質疑応答、プリント
	10 第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2節 地域区分のさまざまなスケール 2章 現代世界の諸地域 1節 地誌的考察方法 2節 東アジア		①②③④	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身につける。 地域区分によって、地域の特徴や他の地域とのつながりを捉える見方を学ぶ。 東アジアの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。	15	
	11 12 3節 東南アジア 4節 南アジア		①②③④	東南アジアの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。 南アジアの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。	25	

		5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ			西アジアと中央アジアの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。 北アフリカとサハラ以南のアフリカの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。		
3	1	7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アングロアメリカ	教科書、資料集、 地図帳	①②③④	ヨーロッパの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。 ロシアの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。 アングロアメリカの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。	1 4	授業への取り組み、質疑応答、プリント
	2 3	10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア 3章 現代世界と日本		①②③④	ラテンアメリカの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。 オセアニアの自然、文化、産業の特徴を学ぶ。 我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望する。	2 2	

4. 課題・提出物等

理解を深めるための作業プリントや長期休暇中を利用した課題・レポート作成等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用・技能	④知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的な現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
関心・意欲・態度、思考・判断、資料の活用・技能・表現、知識・理解を評価の観点とし、授業中の質疑応答の内容を中心として授業への取り組みや課題内容への理解や提出状況、定期考査等を勘案して総合的に評価する。			

6. 担当者から一言

わかりやすい授業、大学受験に対応できる授業を心がけます。何事も準備が大切です。予習はもちろん、来るべき受験に備え、実力をコツコツと蓄積していく一時間一時間と捉えて授業を受けてください。また、社会事象に広く興味関心を持ち、自分自身の視野を広げ、世界の諸問題について幅広い見方や考察ができる力を養いましょう。

平成28年度 シラバス（公民）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	公民（現代社会）	単位数	2 単位	学年（年次）	1 学年
使用教科書	「高等学校 現代社会」（第一学習社）				
副 教 材 等	「アクセス現代社会2016」（帝国書院） 「新課程用 現代社会ノート」（第一学習社）				

1. 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2. 指導の重点

現代社会は進学等に必要受験科目としての位置付けと将来社会人となった際の基本的な教養という二つの側面がある。そのどちらも満たせるよう知識と教養のバランスのとれた内容で指導を行う。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	4 月	第2編 現代社会と人間としてのあり方 第2章 個人の尊重と法の支配 ①民主政治における個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界のおもな政治体制	教科書 資料集 ワーク ① ②③	・民主政治がヨーロッパで生まれた経緯や社会契約説、権力分立の思想、議会制民主主義の成立と仕組みについて理解します。 ・基本的人権と法の支配の意義、自由権から社会権へ向かう人権の歴史的展開、人権保障の国際的な展開について理解します。 ・議院内閣制と大統領制の特色を三権の関係などの観点から理解するとともに、社会主義国の政治体制について理解します。	6	定期考査 小テスト 提出物 課題 授業の取り組み 興味・関心
	5 月	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と安全保障 ③基本的人権の保障と新しい人権	教科書 資料集 ワーク ① ③ ④	・大日本帝国憲法の性格を学ぶとともに、日本国憲法が制定されるまでの経緯について学習し、日本国憲法の三大原理について理解します。 ・日本国憲法に定める平和主義の内容を確認し、日本の防衛と自衛隊の役割、安全保障に関する日本とアメリカの関係などについて考察します。 ・日本国憲法における人権保障の基本的な考え方や自由権的基本権・社会権的基本権などの内容について理解します。また、基本的人権を実現するための権利などについても学習します。	8	
	6 月	④国民主権と議会制民主主義 ⑤内閣と行政の民主化 ⑥裁判所と人権保障 ⑦地方自治と住民の福祉 ⑧世論形成と政治参加	教科書 資料集 ワーク ① ② ④	・三権の相互関係について理解し、国会の役割と権限、二院制をとっている国会の構成と運営、現状と改革の動きについて学習します。 ・議院内閣制の仕組み、内閣の権限と国の行政組織を理解するとともに、行政における課題について考察します。 ・司法の権限、司法権の独立の意義と内容、日本の裁判制度、「憲法の番人」としての裁判所、裁判員制度などの司法制度改革について理解します。 ・民主政治における地方自治の意義を確認すると同時に、地方公共団体の組織と働きなどについて理解し、地方自治と国政との関係、住民の政治参加の意義などについて考察します。 ・世論の意義を理解し、世論とメディアとの関係、大衆化した社会における政治意識などについて考察します。	8	
	7 月	第4章 国際政治の動向と日本の役割 ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③今日の国際社会 ④核兵器の廃絶と国際平和 ⑤国境と領土問題 ⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦外交政策と日本の役割	教科書 資料集 ワーク ② ③ ④	・国家の三要素、主権国家の成立、国際法の意義と国際法の種類などについて理解します。 ・国際紛争を避ける仕組みとしての勢力均衡、集団安全保障、国際連盟の特色、国際連合の成立と仕組みについて理解します。 ・第二次世界大戦後の東西の対立、1960年代の労働環境、多極化の動き、その後の冷戦の終結、冷戦終結後の紛争と対立などについて理解します。 ・米ソの覇権拡張競争と反核運動、国連の軍縮に向けた取り組みと成果について理解し、軍縮に伴う課題、信頼を育てることの重要性について考察します。 ・民族と国家の関係がもたらす民族紛争、独立に伴う紛争、国家を持たないことが原因となる民族紛争、民族対立に伴って引き起こされる難民問題について考察します。	6	
2 学期	8・9 月	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済社会と経済体制 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ	教科書 資料集 ワーク ① ③ ④	・産業革命などを契機に資本主義経済が成立したこと、アダム・スミスの考え、資本主義経済の変容と社会主義やウェンズの理論、資本主義の現在について理解します。 ・経済主体の一つである企業の役割、企業の活動、株式会社の特色、国際化に伴う変化、企業の社会的責任について理解します。 ・財やサービスを価格の動きを通じて配分していく市場の仕組み、寡占市場における価格の形成、独占禁止政策について理解します。また、価格機能が十分に働かない、市場の失敗について	8	定期考査 小テスト 提出物 課題 授業の取り組み 興味・関心

					で考察します。		
	10月	④経済成長と景気変動 ⑤政府の経済政策と租税の意義 ⑥金融機関の役割とリスク ⑦戦後の日本経済の動き	教科書 資料集 ワーク	② ③ ④	・国の経済の指標であるGDPや国富などについて理解し、経済成長の意味や景気の変動について学習します。 ・市場経済の限界を補う意味を持つ政府の経済政策について理解すると同時に、財政制度、租税と公債、財政問題について考察します。 ・金融システムの仕組み、資金を融通する方法としての直接金融、間接金融、通商制度、信用創造について理解します。 ・第二次世界大戦後の経済復興にかかわる諸改革や高度経済成長の背景について理解します。	8	
	11月	⑧産業構造の変化 ⑨雇用と労働問題 ⑩公害の防止と環境保全 ⑪消費者保護と契約 ⑫社会保障と国民福祉	教科書 資料集 ワーク	② ③ ④	・労働政策の重要性、労働組合、労働運動、労働者の権利の必要性、労働に関する法制を理解します。 ・高度経済成長とともに引き起こされた日本の公害問題とその後の政府の公害対策、新しい公害と環境保全について理解し、今後における持続可能な社会、循環型社会について考察します。 ・消費者主権の意味や消費者問題の背景、消費者運動、消費者行政と関連法の概要を理解し、消費者の自立に向けた取り組みについて考察します。 ・社会保障の意義と制度の歴史、日本の社会保障制度の概要について理解し、少子高齢化社会における社会保障制度の在り方について考察します。	8	
	12月	第6章 国際経済の動向と日本の役割 ①国際経済のしくみと貿易の拡大 ②国際経済の動向 ③発展途上国の経済と南北問題 ④国際協調と日本の役割	教科書 資料集 ワーク	① ③ ④	・貿易の意義、自由貿易と保護貿易、リカードやリストの考え方、企業の展開と国際分業の実態について理解します。 ・取り引きの決済方法としての外国為替の仕組み、為替レートの変動要因と影響、国際収支の仕組みと黒字や赤字の意味について理解します。 ・IMF-GATT体制成立の背景やその仕組み、貿易ルールにかかわるGATTの枠組み、IMF-GATT体制の危機と崩壊について理解します。	6	
3学期	1月	第7章 現世に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②伝統的なものの考え方と価値観 ③西洋の自然観と人間観 ④私たちの課題	教科書 資料集 ワーク	① ② ④	・ソクラテス、プラトン、アリストテレスの思想、孔子などの儒家、老子や荘子などの道家の思想を理解します。 ・三大世界宗教と呼ばれている仏教、キリスト教、イスラム教の人間観や教えについて理解します。 ・八百万の神に示される神の考え方、清き心などの日本人の倫理観について理解します。 - また、日本の仏教の形成について学びます。 ・人間の尊厳を理生（こと）によって説明したカントや理生（こと）における具体化を主張したヘーゲル、幸福と正義の関わりを考えたアダム・スミス、ベンサム、J.S.ミルの思想について理解します。	5	定期考査 小テスト 提出物 課題 授業の取り組み 興味・関心
	2月	第1編 私たちの生きる社会 ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③科学技術の発展と生命倫理 ④高度情報社会と私たちの生活	教科書 資料集 ワーク	① ③ ④	・地球環境問題、資源エネルギー問題について多面的に理解し、持続可能な開発に向けた課題について考察します。 ・医療技術の発展が生命倫理の問題をもたらしていることを理解し、臓器移植や医療資源の配分、バイオテクノロジーの進歩と生命倫理などについて考察します。 ・情報化の進展が生活や社会の変化に及ぼした影響を理解し、情報化社会の課題や未来について考察します。	4	
	3月	第3編 ともに生きる社会をめざして ケーススタディ1 税と社会 ケーススタディ2 発展途上国の貧困問題の解決をめざして ケーススタディ3 人口問題と私たちの未来	教科書 資料集 ワーク	① ② ③	・持続可能な社会の形成に向けて、各課題を様々な方法で調べ分かったことをまとめる活動を行います。また、課題を解決するためには何が必要か、わたしたちが何ができるかなどの点について提案したり話し合ったりする活動を行います。	3	

4. 課題・提出物等

長期休業中に課題を課し、その課題をもとに課題考査を行う。また、課題の提出も評価の対象とする。
その他、随時ワークブックの提出をしてもらい、知識がどの程度定着したかを確認する。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用・技能	④知識・理解
-----------	-----------	----------	--------

現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
・授業の取り組み（授業態度、学習活動への参加状況など） ・定期考査 ・その他課題・提出物 などから、総合的に評価します。			

6. 担当者から一言

現代社会という科目はその名の通り今の世の中全般を扱う科目である。授業の内容を十分に理解できるように努めるのはもとより、積極的に現在の社会事象について興味や関心を持つようにしてほしい。また新聞を読むことや読書に親しむように心がけてもらいたい。
--

教科(科目)	数学(数学Ⅰ)	単位数	4単位	学年(年次)	第1学年
使用教科書	東京書籍「数学Ⅰ」(東書 数Ⅰ301)				
副教材等	準備問題集「ニュースコープ 数学Ⅰ+A」、参考書「ニューアクションβ 数学Ⅰ+A」 準備問題集「ニュースコープ 数学Ⅱ+B」、参考書「ニューアクションβ 数学Ⅱ+B」(早期使用予定)				

1. 学習目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 指導の重点

計算能力が低い生徒が多く見られる現状を踏まえ、1章と3章を重点的に指導していく。

3. 学習計画

学期(月)	単元名	教材	評価対象	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
第1学期	4 1章 数と式 1節 式の計算 1 整式	教・書 副教材 プリント	①、③、④	単項式、次数、係数、多項式、項、整式など、式についての用語の意味を理解させる。また、特定の文字に着目することや、同類項、整式とその整理、次数、定数項など、整式を整理するなかで、式についての見方を豊かにさせる。	2	1学期中間考査 確認テスト 小テスト 課題発見 授業への取り組み 演習(傍聴)の取り組み 課題内容の理解度
	2 整式の加法・減法・乗法		②、③、④	整式の加法・減法、指数規則、整式の乗法、多項式の乗法公式などの基本的な計算ができるようにさせる。また、式の一部を1つの文字のようになしたり、積の順序を工夫するなど、見直しをもって能率よく計算ができるようにさせる。	3	
	3 因数分解		②、③、④	展開公式と関連させて、因数分解の公式を利用できるようにさせる。また、式の一部を1つの文字のようになしたり、1つの文字について整理するなど、見直しをもって能率よく計算ができるようにさせる。	4	
	問題演習		①、③、④		2	
	5 2節 実数 1 実数	教・書 副教材 プリント	②、③、④	自然数、整数、有理数、無理数の意味のわり、実数について理解させる。また、絶対値の定義をもとに、絶対値の符号を含む式の計算ができるようにさせる。	2	1学期期末考査 確認テスト 小テスト 課題発見 授業への取り組み 演習(傍聴)の取り組み 課題内容の理解度
	2 根号を含む式の計算			根号を含む式の計算ができるようにさせる。また、分母の有理化について理解し、基礎的な計算ができるようにさせる。	3	
	問題演習				1	
	3節 1次不等式 1 不等式とその性質		①、④	不等式の意味を理解し、数量の間の大小関係を不等式で表すことができるようにさせる。また、不等式の性質を正しく理解させる。	2	
	2 1次不等式の解法	教・書 副教材 プリント	③、④	不等式の性質をもとに不等式の解法を解くことの意味を理解し、1次不等式を解くことができるようにさせる。	2	2学期中間考査 確認テスト 小テスト 課題発見 授業への取り組み 演習(傍聴)の取り組み 課題内容の理解度
	3 連立1次不等式		①、②、③、④	連立1次不等式について解くことができるようにさせる。また、1次不等式を文章問題に活用することができるようにさせる。さらに、絶対値記号を含む方程式・不等式で数値線図を活用した解法とその意味を理解させる。	3	
	問題演習				2	
	6 2章 集合と論理 1節 集合 1 集合		①、③、④	集合と要素、集合の表し方、部分集合について学び、図表などを用いて集合の包含関係、共通部分と和集合、空集合について理解させる。	2	
	2 補集合とド・モルガンの法則	教・書 副教材 プリント	②、④	また、集合に関する記号の意味を理解し、適切に使うことができるようにさせる。	1	2学期期末考査 確認テスト 小テスト 課題発見 授業への取り組み 演習(傍聴)の取り組み 課題内容の理解度
	問題演習			補集合、ド・モルガンの法則について、図表による包含関係と関連づけて理解させる。	1	
	2節 命題と論理 1 命題と条件		②、③、④	命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件などの用語の定義を学び、さらに、命題についての条件の否定とド・モルガンの法則を理解させる。	2	
	2 論理		①、②、④	命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用して証明法や帰納法による証明法を学び、論理的な思考力を身につけさせる。	2	
	問題演習	教・書 副教材 プリント			2	
	7 3章 2次関数 1節 関数とグラフ 1 関数		①、②、④	互いに関連しあっているものとして、関数の概念を基本的な用語とともに確認・理解し、関数を表す記号 $y=f(x)$ を使えるようにさせる。	2	2学期期末考査 確認テスト 小テスト 課題発見 授業への取り組み 演習(傍聴)の取り組み 課題内容の理解度
	2 2次関数とそのグラフ		②、③、④	互いに関連しあっているものとして、関数の概念を基本的な用語とともに確認・理解し、関数を表す記号 $y=f(x)$ を使えるようにさせる。	6	
	問題演習			また、定義域・値域・最大値・最小値の用語を身につけさせる。		
				中学校で学んだ乗じ出かける関数の性質を復習し、それをもとに2次関数について理解させる。また、2次関数 $y=ax^2+bx+c$ を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形し、そのグラフを利用できるようにさせる。		
	3 2次関数の最大・最小	教・書 副教材 プリント	②、③、④	2次関数の最大・最小について理解を深め、定義域に応じて、最大値や最小値を求めることができるようにさせる。また、具体的な問題の解決に活用できるようにさせる。	4	2学期期末考査 確認テスト 小テスト 課題発見 授業への取り組み 演習(傍聴)の取り組み 課題内容の理解度
	4 2次関数の決定		①、②、③	2次関数のグラフについて与えられた条件から、その2次関数を定められるようにさせる。	3	
	問題演習				2	
	8 2節 2次方程式・2次不等式 1 2次方程式の解法		②、③	因数分解や解の公式を用いて、2次方程式の解を求めることができるようにさせる。また、 x の総称1関数の場合の解の公式の適用について練習	2	

第2学期	9	2 2次方程式の実数解の個数		①、④	習するようにさせる。 2次方程式の実数解の個数と判別式 b^2-4ac の符号との関係を理解させる。	4	
		3 2次関数のグラフとx軸の共有点		①、②、④		3	
		4 2次不等式		①、②、③、④	2次関数のグラフとx軸の共有点と、判別式の符号との関係を理解させる。	5	
		5 2次不等式的应用		②、③、④	2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係から、2次不等式の解の意味を理解し、その解を求めることができるようにさせる。また、グラフを活用することのよさを認識させる。	2	
		問題演習			2次不等式を含む連立不等式を解くことができるようにさせる。また、具体的な問題の解決で2次不等式を活用できるようにさせる。	2	
	10	5章 データの分析 1節 データの整理と分析 1 データの整理	教科書 副教材 プリント	③、④	データの特徴や傾向をとらえるために、データを整理することのよさを認識し、データを数値分表やヒストグラムを用いて表すことができるようにさせる。また、相対数値を求めることができるようにさせる。	1	2学期期末考査確認テスト 小テスト 課題選定見出し 授業への取り組み 演習(発展)の取り組み 課題内容の理解度
		2 代表値		③、④	データの特徴を1つの数値で表すことの有用性を認識し、平均値、中央値、最頻値について理解させる。	1	
		3 箱ひげ図		①、②、④	データの特徴を詳しくとらえる方法として、四分位数、箱ひげ図を理解させる。	1	
		4 箱ひげ図とデータの散らばり		②、④	範囲、四分位範囲、四分位偏差を理解し、箱ひげ図を用いてデータの分布のようすを視覚的に把握することができるようにさせる。	1	
		5 分散と標準偏差		①、②、④	データの散らばり具合を数値で表す方法として、偏差、分散、標準偏差を理解させる。また、データをもとにそれらを求めることができるようにさせる。	2	
		問題演習				1	
		2節 データの相関		①、④			
		1 相関関係		③、④	2つの変量の相関関係とする散布図をつくり、2つの変量の相関をとらえることができるようにさせる。	1	
		2 相関係数			相関関係の1つの数値として表す方法として、相関係数を理解させる。また、相関係数を求め、2つの変量の相関をとらえることができるようにさせる。	2	
		問題演習				1	
第2学期	11	4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 1 直角三角形と三角比		①、②、④	三角比としての正弦の意味を理解し、 30° 、 45° 、 60° の正弦の値を求め、活用できるようにさせる。	2	
				①、②、④			
		2 正弦・余弦		②、③、④	正弦、余弦の意味を理解し、 30° 、 45° 、 60° の正弦、余弦の値を求め、活用できるようにさせる。また、三角比の表を利用できるようにさせる。	3	
		3 三角比の相互関係			三角比の相互関係について理解させる。	2	
		問題演習		①、②、③、④		2	
		2節 三角比の拡張 1 三角比と座標		②、③、④	鈍角にまで拡張した三角比の定義を理解し、鋭角の場合と矛盾しないことを確認させる。また、 0° 、 90° 、 180° の場合についての三角比も理解させる。さらに、直線 $\sin m$ の傾きと正弦の関係について理解させる。	3	
		2 三角比の性質			三角比の相互関係について理解を深め、それらを活用できるようにさせる。	2	
		問題演習				2	
		3節 三角比の応用 1 正弦定理	教科書 副教材 プリント	③、④	三角形の辺と角の間の基本的な関係として正弦定理を理解し、活用できるようにさせる。	3	3学期期末考査確認テスト 小テスト 課題選定見出し 授業への取り組み 演習(発展)の取り組み 課題内容の理解度
第3学期	1	2 余弦定理		①、②、③、④	余弦定理を理解し、三角形の辺と角の間の関係について理解を深めさせる。また、既知の辺や角から残りの辺や角を求めることができるようにさせる。	5	
		3 三角形の面積		①、③、④	条件づいて正弦定理や余弦定理を活用し、三角形の面積を求めることができるようにさせる。また、円に内接する四角形の面積について考察させる。	3	
		4 空間図形の計量		①、③	三角比を空間図形の計量で活用できるようにさせる。	3	
		問題演習				2	
		2 数学Ⅱ(発展学習) 3章 三角関数 1節 三角関数	副教材 プリント	①、②、③、④	度数法から弧度法への変換をさせる。単位円を用いて三角関数の基本的な性質を理解させる。関数の性質からグラフが書け、方程式・不等式が解くことができるようにする。	14	
第3学期	2	2節 加法定理		①、②、③、④	15° や 75° などの三角比を求めるために公式を利用できるようにさせる。公式から応用し、2倍角や半角の求め方を理解させる。三角関数の合成を行い、関数の最大・最小を求めることができるようにさせる。	8	
第3学期	3	課題学習 数の不思議 ノートの売り上げ 物の見え方 さくらの開花	教科書 副教材 プリント		数学Ⅰで学習する「数と式」、「集合と論理」、「関数と計量」、「データの分析」と関連する身近な課題について具体的に学習し、数学のよさを認識させる。	1 1 1 1 1	

4. 課題・提出物等

オリジナル評価問題のプリント、ニュースコープ数学Ⅰ+A練習問題A、ニューアクションβ数学Ⅰ+A問題、授業中や休業中に配布する演習プリント、課題プリント

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身につけ、的確に問題を解決できる。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、2次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。
課題内容を理解し、授業中や休業中に配布する演習と発表への取組、プリントへの取り組み状況や定期査、各単元の確認テストや課題プリント等を総合的に評価			

6. 担当者から一言

・授業中は黒板を写すことに専念するのではなく、行間こどのような説明をしたのかに注意をして授業を受ける。 ・数学は真の重宝が重要です。授業で理解できなかったことはそのままにせず、放課後などを利用して必ず再確認してから次の授業に臨む。 ・出された課題はきちんとやる。家庭学習が少ないと、学力の向上は望めない。
--

平成28年度 シラバス（理科）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	理科（物理基礎）	単位数	2単位	学年（年次）	1学年
使用教科書	高等学校 新物理基礎（第一学習社）				
副教材等	ネオパルノート 物理基礎（第一学習社）、フォローアップドリル物理基礎 運動の表し方・力・運動方程式（数研出版）				

1. 学習目標

物理が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。

2. 指導の重点

日常生活と物理を関連させ、物理に興味・関心を持たせる。基本的な問題の演習や実験を通して自然法則の理解を深める。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	4 5	第1章 力と運動 第1節 物体の運動 ①速さと等速直線運動 ②変位と速度 ③速度の合成・相対速度 ④加速度 ⑤等加速度直線運動	教科書 フォローアップ ドリル ネオパルノート 物理基礎 ②④ ④ ② ④ ④ ①②④	・速さ、速度、変位の定義を理解する。 ・等速直線運動について理解する。 ・物体の運動とグラフについて理解する。 ・合成速度、相対速度について理解する。 ・加速度の定義を知る。 ・等加速度直線運動をグラフや式を使って扱えるようになる。	15	授業への取組 課題の提出 小テスト 定期考査
	6 7	⑥重力加速度と自由落下 ⑦鉛直投げおろし・鉛直投げ上げ ⑧水平投射・斜方投射 第2節 力と運動の法則 ① 力と質量 ② いろいろな力 ③ 力の合成・分解と力のつりあい ④慣性の法則 ⑤力と質量と加速度の関係 ⑥運動の法則 ⑦作用・反作用の法則	教科書 フォローアップ ドリル ネオパルノート 物理基礎 ①③④ ①②③④ ④ ④ ④ ①②③④	・落体の運動について理解を深める。 ・自由落下の実験を通してデーター処理について学ぶ。 ・さまざまな力について学ぶ。 ・力を分解、合成できるようにする。 ・物体にはたらく力のつりあいについて理解する。 ・運動の3法則について学ぶ。	17	授業への取組 課題の提出 小テスト 定期考査 実験レポート
2 学期	8 9 10	⑧摩擦力 ⑨運動方程式の利用(1) ⑩運動方程式の利用(2) 第II章 エネルギー 第1節 仕事と力学的エネルギー ① 力がする仕事 ② 仕事と仕事率 ③ 運動エネルギー ④ 位置エネルギー ⑤ 力学的エネルギー保存の法則 ⑥ いろいろな運動と力学的エネルギー	教科書 フォローアップ ドリル ネオパルノート 物理基礎 ①②④ ①②④ ①②④ ①②④ ①②④	・摩擦力を理解し、摩擦力がはたらくときの運動を分析できるようになる。 ・自分で図に力を描き込み、運動方程式を立てて解けるようになる。 ・仕事について理解する。 ・仕事と運動エネルギーの関係について理解する。 ・位置エネルギーについて理解する。 ・力学的エネルギー保存則について理解し、物体の運動を分析する。 ・力学的エネルギーと仕事の関係について理解し、物体の運動を分析する。	17	授業への取組 課題の提出 小テスト 定期考査

	11 12	第2節 熱とエネルギー ① 温度と熱運動 ② 熱と熱平衡 ③ 熱と仕事 ④エネルギーの変換と保存 第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 ① 波と振動 ② 波の表し方 ③ 波の重ねあわせと定常波 ④ 波の反射 第2節 音波 ① 音の速さと3要素 ② 波としての音の性質 ③ 弦の固有振動 ④気柱の固有振動	教科書 ネオバブルノート 物理基礎	①②④ ①②④ ①②④ ①②④ ①②④ ①②④ ①②③④	・熱運動を通して温度について学ぶ。 ・熱量、熱容量、比熱について理解し、熱量保存の法則について学ぶ。 ・熱力学の第一法則について理解する。 ・熱機関について学ぶ。 ・波の表し方を理解する。 ・縦波と横波について理解する。 ・波の重ね合わせを理解し、定常波について学ぶ。 ・波の反射を理解する ・音波の3要素について理解する。 ・音の反射、うなりについて理解する。 ・弦や気柱の固有振動について理解する。	16	授業への取組 小テスト 課題の提出 定期考査 実験レポート
		第Ⅳ章 電気 第1節 電荷と電流 ① 電荷 ② 電流と電気抵抗 ③ 物質と抵抗率 ④ 直流回路 ⑤ 電力量と電力 第2節 電流と磁場 ①磁場 ②交流の発生と利用 ③電磁波 第3節 エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーの利用 ②原子力エネルギー	教科書 ネオバブルノート 物理基礎	①② ①②④ ①④ ①②④ ①②④ ①④ ①④ ①④ ①④	・静電気の性質や電流について考える。 ・電気回路と電流・電圧・抵抗の性質を知る。 ・ジュール熱と電力を理解する。 ・電流と磁場との関係（フレミングの左手の法則と右ねじの法則）を理解する。 ・モーターと発電機の仕組みを理解する。 ・電磁波について学ぶ。 ・エネルギーの変換について学ぶ。 ・エネルギーの利用について学ぶ。 ・放射線・原子力の利用について知る。	20	授業への取組 小テスト 課題の提出 定期考査

4. 課題・提出物等

問題集、小テスト、課題プリント、実験レポート等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

以下の観点にしたがって、総合的に判断する。 ① 学習への取り組み態度、実習、実験などへの積極的な参加態度、課題の提出状況等 ② 発表や話し合いでの活動およびワークシートの記入内容等 ③ 実験や実習でのレポート、実技テスト等 ④ 定期テスト

6. 担当者から一言

物理は自然科学の基礎となる大切な科目です。特に、理学・工学系の職業を考えている人にとっては必須の科目です。授業を大切にし、授業中の問題演習の時間で積極的に問題を解きましょう。似たような問題を繰り返し解くことによって、自然法則の理解が深まります。自分の手を動かし、多くの問題を解いて下さい。
--

平成28年度 シラバス（理科）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	理科（化学基礎）	単位数	2単位	学年（年次）	2学年（文系）
使用教科書	化学基礎（東京書籍）				
副教材等	化学基礎の必修整理ノート（文英堂）				

1. 学習目標

物質の基本的な粒子概念、原理、法則などを、身近な物質や現象を通して理解し、習得させるとともに、生活に関連した科学的自然観や思考力を育成する。

2. 指導の重点

- ・物質の構成粒子の基本的な概念を理解し、物質についてのとらえ方を養う。
- ・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活と関連づけて考察できるようにする。
- ・観察、実験などを通して学習内容を深めるとともに、化学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付ける。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4 序 化学と人間生活	教科書	①④	・生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。 ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・構成粒子の違いと物質の種類を理解する。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。 ・金属原子間の結合および金属からなる物質の性質を理解する。	1	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査
	5 第1編 物質の構成	副教材	②④		10	
	1章 物質の探究	プリント				
	○中間考査					
	6 2章 原子の構造と元素の周期表		②④		11	
	3章 化学結合		②③④			
	1イオン					
	2イオン結合					
2	7 ○期末考査					
	8 3 共有結合～7 化学結合と物質の分類・用途					
	9 第2編 物質の変化	教科書	②③④	・原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 ・物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 ・化学反応式のつくり方を学習し、その応用を理解する。 ・酸と塩基の定義を理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係およびpHについて理解する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。	16	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査 ・実験報告書
	10 1章 物質量と化学反応式	副教材			15	
	○中間考査	プリント				
	11 2章 酸と塩基		①②④			
	12 ○期末考査					
3	1 3章 酸化還元反応		①②③④	・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤・還元剤について学習する。 ・電池の原理とおもな電池の構成を学習する。 ・酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。	17	・授業態度 ・発問評価 ・小テスト ・定期考査
	2 ○学年末考査					
	3					

4. 課題・提出物等

- ・考査後に考査範囲のノート提出してもらいます。
- ・実験報告書は、実験の際に指示します。
- ・休業中の課題は別途指示します。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然界や産業界にある化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。

以下の観点にしたがって、総合的に判断する。

- ① 学習への取り組み態度、実習、実験などへの積極的な参加態度、課題の提出状況等 ② 発表や話し合いでの活動およびワークシートの記入内容等

③ 実験や実習でのレポート、実技テスト等

④ 発問評価や適宜行うテスト等

6. 担当者から一言

身の回りの物質の性質や構造、自然現象について学習していきます。

日々の授業はとても大切です。授業の復習は必ず行い、問題集を上手に活用していきましょう。また疑問点はそのままにせず、積極的に質問してください。

平成28年度 シラバス (理科)

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科 (科目)	理科 (化学基礎)	単位数	3 単位	学年 (年次)	2 学年 (理系)
使用教科書	化学基礎 (実教出版)				
副 教 材 等	ニューグローバル化学基礎+化学 (東京書籍), サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版), ゼミノート化学基礎 (数研出版)				

1. 学習目標

物質の基本的な粒子概念、原理、法則などを、身近な物質や現象を通して理解し、習得させるとともに、生活に関連した科学的自然観や思考力を育成する。

2. 指導の重点

- ・物質の構成粒子の基本的な概念を理解し、物質についてのとらえ方を養う。
- ・化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活と関連づけて考察できるようにする。
- ・観察、実験などを通して学習内容を深めるとともに、化学的に探究する方法や問題解決の能力を身に付ける。

3. 学習計画

学期 (月)	単元名	教材	評価の観点	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
1	4 序 化学と人間生活	教科書	①	・生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。	1	・授業態度
	5 第1章 物質の構成	副教材	①②	・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。	7	・発問評価
	6 1節 物質の探究	プリント		・構成粒子の違いと物質の種類を理解する。		・小テスト
	2節 物質の構成粒子		①②	・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。	10	・定期考査
	第2章 物質と化学結合			・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。		
2	7 1節 イオンとイオン結合			・金属原子間の結合および金属からなる物質の性質を理解する。		
	8 2節 分子と共有結合		①②	・原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。	14	
	3節 金属と金属結合			・物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。		
	第3章 物質の変化			・化学反応式のつくり方を学習し、その応用を理解する。		
	1節 物質量と化学反応式					
3	9 2節 酸と塩基	教科書	③④	・酸と塩基の定義を理解する。	24	・授業態度
	10 〇中間考査	副教材		・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係および pH について理解する。		・発問評価
	11 3節 酸化還元反応	プリント	③④	・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。	25	・小テスト
	12 〇期末考査			・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤・還元剤について学習する。		・定期考査
				・電池の原理とおもな電池の構成を学習する。		・実験報告書
4				・酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。		
	1 発展学習	教科書	②③④	・元素分類を理解する。		・授業態度
	2 無機物質編	プリント		・無機化合物の性質や用途を学習する。	11	・発問評価
	〇学年末考査			・有機化合物の特徴と分類について理解する。	13	・小テスト
	3 有機化合物編					・定期考査
						・実験報告書

4. 課題・提出物等

- ・考査後に考査範囲のノートを提出してもらいます。
- ・実験報告書は、実験の際に指示します。
- ・休業中の課題は別途指示します。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然界や産業界にある化学的な事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
以下の観点にしたがって、総合的に判断する。 ① 学習への取り組み態度、実習、実験などへの積極的な参加態度、課題の提出状況等 ② 発表や話し合いでの活動およびワークシートの記入内容等 ③ 実験や実習でのレポート、実技テスト等 ④ 発問評価や適宜行うテスト等			

6. 担当者から一言

身の回りの物質の性質や構造、自然現象について学習していきます。 日々の授業はとても大切です。授業の復習は必ず行い、問題集を上手に活用していきましょう。また疑問点はそのままにせず、積極的に質問してください。

平成28年度 シラバス（理科）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	理科（生物基礎）	単位数	2単位	学年（年次）	1学年
使用教科書	生物基礎（数研出版）				
副教材等	ニューグローバル生物基礎（東京書籍）、三訂版スクエア最新図説生物neo（第一学習社） スタディアップノート生物基礎（数研出版）				

1. 学習目標

- ・現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。
- ・生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見出していく。
- ・観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。
- ・命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。

2. 指導の重点

- ・教科書の内容を解説するだけでなく、身近な生物種や自然現象、最先端の生物学の話題などを織り交ぜながら、生物学への興味関心を高める指導をする。
- ・大学入試に対応できる基礎学力が身につくように指導する。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	4 生物の多様性と共通性	教科書 図説 問題集	①④	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生物の基本的特徴について理解する。 ・原核細胞と真核細胞の特徴について理解する。	5	授業への取組 課題の提出 定期考査
	5 エネルギーと代謝	教科書 図説 問題集	①②③	実験・観察 身近な原核生物と真核細胞を顕微鏡で観察する。 ・真核生物における細胞小器官を理解する。 ・同化と異化および代謝に伴うエネルギーの移動とATPとの関係について理解する。 ・光合成と呼吸の過程をエネルギーとATPの視点から理解する。	6	
	6 遺伝情報とDNA	教科書 図説 問題集	①②③	・DNAの構造について理解する。 ・DNAの複製について理解する。 ・タンパク質の働きを理解する。 ・タンパク質の構造を理解する。 ・DNAの抽出実験	8	授業への取組 課題の提出 定期考査
	7・8 遺伝情報の分配	教科書 図説 問題集	③④	・細胞分裂とDNAの分配について理解する。 ・ゲノムについて理解する。 ・だ腺染色体の観察	7	
2 学期	9 体内環境と恒常性 神経とホルモンによる調節	教科書 図説 問題集	①②③④	・体液の種類とその循環について理解する。 ・腎臓と肝臓の役割を理解する。 ・自律神経とホルモンの働きを理解する。 ・血球の観察	8	授業への取組 課題の提出
	10 免疫	教科書 図説 問題集	①④	・自然免疫と獲得免疫のしくみを理解する。 ・免疫と病気との関係について理解する。	8	授業への取組 課題の提出 定期考査

	11	さまざまな植生 植生の遷移	教科書 図説 問題集	①④	・植生とその成り立ちについて理解する。 ・植生の遷移の過程について理解する。	7	授業への取組 課題の提出 定期考査
	12	気候とバイオーム	教科書 図説 問題集	①④	・気候条件とバイオームの関係について理解する。 ・世界のバイオームとその分布について理解する。	6	授業への取組 課題の提出
3 学期	1	生態系	教科書 図説 問題集	①②	・生態系の成り立ちについて理解する。 ・さまざまな生態系について理解する。 ・生態ピラミッドについて理解する。	6	授業への取組 課題の提出
	2	物質循環とエネルギーの流れ	教科書 図説 問題集	①②④	・生態系内の炭素と窒素の循環について理解する。 ・生態系におけるエネルギーの流れについて理解する。	6	授業への取組 課題の提出 定期考査
	3	人間活動と生態系の保全	教科書 図説 問題集	①②	・外来生物について理解する。 ・生物濃縮のしくみについて理解する。 ・生態系の保全について理解を深める。	3	授業への取組 課題の提出

4. 課題・提出物等

・授業の進度をみて実験や演習を行い、レポート等を提出してもらいます。また、単元ごとに問題集に取り組み、課題として提出してもらいます。

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	・自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	・自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

以下の観点にしたがって、総合的に判断する。

- ① 学習への取り組み態度、実習、実験などへの積極的な参加態度、課題の提出状況等 ② 発表や話し合いでの活動およびワークシートの記入内容等
③ 実験や実習でのレポート、実技テスト等 ④ 発問評価や適宜行うテスト等

6. 担当者から一言

1. 日々の授業、定期考査を大切にすること。これだけで受験に必要な基礎力は必ずつきます。
2. 生物という教科では、文章を「読む力」、「書く力」も求められます。学習した内容を日々の生活に結びつけることで、理科はとても楽しい教科になります。頑張りましょう。

平成28年度 シラバス（保健体育）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年（年次）	1学年
使用教科書	教科書 大修館 現代高等保健体育				
副教材等					

1. 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かに活力のある生活を営む態度を育てる。

2. 指導の重点

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4 月	・オリエンテーション		・科目および授業内容説明、連絡、諸注意	1	運動に対する関心・意欲・態度 各単元（運動）の特性の知識・理解 課題解決のための思考、判断
		・体づくり運動	①②③④	・体まぐしの運動、体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。	5	
	5月 6月	・4領域選択 器械運動 （マット運動） 陸上競技（跳・投） ダンス （現代的なリズムのダンス）	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ ①②③④	・マット運動を通して、自己の能力に応じて「技を習得すること」と「技を円滑にできること」を主なねらいとし、技の達成や演技の出来ばえに楽しさや喜びを体感する。 ・跳、投の運動でより速い助走でより遠くへ跳んだり、投げたりすることを主なねらいとし、自己の記録を向上するための各種の技能を高め、記録向上の喜びや競争の楽しさを体感する。 ・感情を込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。	21	
		・陸上競技 （長距離走）	①②③④	・ペースの変化に対応し、自己に適したペースを維持して走ることをねらいとし、記録向上の喜びや競争の楽しみ、持久力と忍耐力の強化を図る。	6	
2 学 期	7月	・体育理論 1運動・スポーツの文化的特徴	現代高等学校 保健体育 ④	・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴について理解できるようにする。	3	各単元（運動）の技能習得 出席状況 （欠席、見学、異状） 体育日誌 グループノート
		・球技・武道選択① ゴール型（サッカー） ネット型（テニス） ベースボール型 （ソフトボール）	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ ①②③④	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開する。 ・柔道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防	22	
	9月	武道（柔道）				

2 学 期	10 月				を展開する。		
		・体づくり運動		①②③④	・体づくりの運動、体力を高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。	5	
		・球技・武道選択② ゴール型 (バスケットボール) ネット型 (バレーボール) ネット型 (バドミントン) 武道 (剣道)	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて、相手の構えを崩し、素早くしかめたり応じたりするなどの攻防を展開する。	13	
3 学 期	12 月						
	1 月	・球技・武道選択③ ゴール型 (バスケットボール) ネット型 (バレーボール) ネット型 (バドミントン) 武道 (剣道)	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて、相手の構えを崩し、素早くしかめたり応じたりするなどの攻防を展開する。	13	
		・体育理論1運動・ スポーツの文化的特徴	現代高等学校 保健体育	④	・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴について理解できるようにする。	3	
	2 月	・球技・武道選択④ ゴール型 (バスケットボール) ネット型 (バレーボール) ネット型 (バドミントン)	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・球技について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開する。 ・剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて、相手の構えを崩し、素早くしかめたり応じたりするなどの攻防を展開する。	13	
	3 月	武 道 (剣道)					

4. 課題・提出物等

体育日誌、グループノート、ワークシート、小テスト等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポ

			ーツライフの設計の仕方を理解している。
4つの観点を踏まえ、①授業への取り組み②提出物の評価③実技テスト④小テスト⑤出席状況を総合的に判断し、評価を行う。			

6. 担当者から一言

「生きる力」を構成する「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」の3つの項目ができる唯一の教科です。生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、安全を確保する中で運動に親しみ、楽しみを味わうことが重要です。集団の中でのルールを守り、主体的に実践していきましょう。

平成28年度 シラバス（保健体育）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	2単位	学年（年次）	2学年
使用教科書	教科書 大修館 現代高等保健体育				
副教材等					

1. 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かに活力のある生活を営む態度を育てる。

2. 指導の重点

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4月	・オリエンテーション		・科目および授業内容説明、連絡、諸注意	1	運動に対する関心・意欲・態度 各単元（運動）の特性の知識・理解 課題解決のための思考、判断 各単元（運動）の技能習得
		・体づくり運動	①②③④	・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	3	
	5月 6月	・4領域選択器械運動（2種目選択） 陸上競技（走・跳・投） 武道（柔道）	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ ①②③④	・器械運動に主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 ・柔道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	12	
2 学 期	7月	・陸上競技（長距離走）	①②③④	・ペースの変化に対応し、自己に適したペースを維持して走ることをねらいとし、記録向上の喜びや競争の楽しみ、持久力と忍耐力の強化を図る。	6	出席状況（欠席、見学、異装） 体育日誌 グループノート
		・体育理論2運動技能の構造と運動の学び方	現代高等学校 保健体育 ④	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	3	
	8月 9月	・4領域選択② 陸上競技（走・跳・投選択）	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ ①②③④	・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保する	13	
		球技（屋外種目：希望2～3種目）				

3 学 期	10月	武道（柔道）			ことができるようにする。 ・柔道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	
		・体づくり運動		①②③④	・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする ことなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	4
	11月	・4領域選択③球技 (室内種目： 希望2～3種目)	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする ことなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	1 2
		武道（剣道） ダンス（希望種目）			・剣道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 ・ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする ことなどや、健康・安全を確保できるようにする。	
	12月	・体育理論 2 運動技能の構造と運動の学び方	現代高等学校 保健体育	④	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	3
	1月	・4領域選択④ 球技（室内種目： 希望2～3種目）	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする ことなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	1 3
		武道（剣道）			・剣道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	
	2月	ダンス（希望種目）			・ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとする こと、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする ことなどや、健康・安全を確保できるようにする。	
	3月					

4. 課題・提出物等

体育日誌、グループノート、ワークシート、小テスト等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

4つの観点を踏まえ、①授業への取り組み②提出物の評価③実技テスト④小テスト⑤出席状況を総合的に判断し、評価を行う。

6. 担当者から一言

「生きる力」を構成する「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」の3つの項目ができる唯一の教科です。生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、安全を確保する中で運動に親しみ、楽しみを味わうことが重要です。集団の中でのルールを守り、主体的に実践していきましょう。

平成28年度 シラバス（保健体育）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	保健体育（体育）	単位数	3単位	学年（年次）	3学年
使用教科書	教科書 大修館 現代高等保健体育				
副教材等					

1. 学習目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かに活力のある生活を営む態度を育てる。

2. 指導の重点

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

3. 学習計画

学期（月）		単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4月	・オリエンテーション			・科目および授業内容説明、諸連絡、諸注意	1	運動に対する 関心・意欲・ 態度 各単元（運動） の特性の知識 ・理解 課題解決のため の思考、判断 各単元（運動） の技能習得
		・体作り運動		①②③④	・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	5	
	5月	・全領域選択Ⅰ （マイ・スポーツⅠ） 全領域から屋外種目を4種目取り上げる	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・陸上競技について、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	21	
		6月			陸上競技 球技		
		・体育理論 3 体ほぐしの意義 と体力の高め方	現代高等学校 保健体育	④	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。	3	
2 学 期	7月	・全領域選択Ⅱ （マイ・スポーツⅡ） 全領域から屋外種目を4種目取り上げる	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・陸上競技について、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	19	出席状況（欠席、見学、異装） 体育日誌 グループノート
	8月	陸上競技 球技			・球技について、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
	9月	・体育理論 3 体ほぐしの意義 と体力の高め方	現代高等学校 保健体育	④	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。	3	
			・体づくり運動		①②③④	・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	5

2 学 期	10月	・全領域選択Ⅲ (マイ・スポーツⅢ) 全領域から室内種目を4種目取り上げる	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・器械運動について、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・球技について、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・武道について、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・ダンスについて、ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	21	運動に対する 関心・意欲・ 態度
	11月	器械運動 球技 武道 ダンス					各単元（運動） の特性の知識 ・理解
3 学 期	12月	・特別授業編成等	選択制体育ノート カラーワイドスポーツ	①②③④	・器械運動について、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・球技について、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・武道について、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。 ・ダンスについて、ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。	27	出席状況（欠 席、見学、異 装）
	1月						体育日誌
	2月						グループノ ート
	3月						

4. 課題・提出物等

体育日誌、グループノート、ワークシート、小テスト等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
4つの観点を踏まえ、①授業への取り組み②提出物の評価③実技テスト④小テスト⑤出席状況を総合的に判断し、評価を行う。			

6. 担当者から一言

「生きる力」を構成する「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」の3つの項目ができる唯一の教科です。生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するためには、安全を確保する中で運動に親しみ、楽しさを味わうことが重要です。集団の中でのルールを守り、主体的に実践していきましょう。

平成28年度 シラバス（保健体育）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年（年次）	1 学年
使用教科書	教科書 大修館 現代高等保健体育				
副教材等	副教材 大修館 図説 現代高等保健				

1. 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4月	1 単元 現代社会と健康	教科書 大修館 現代高等保健体育	①②④	・健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりが功をなすことを理解できるようにする。	6	授業に対する関心・意欲・態度 各単元と健康・安全に関する知識・理解 課題解決のための思考・判断
	1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方 3. 健康と意志決定・行動選択 4. 健康に関する環境づくり	副教材 大修館 図説 現代高等保健				
5月	5. 生活習慣病とその予防 6. 食事と健康 7. 運動と健康 8. 休養・睡眠と健康	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することが必要であることを理解できるようにする。	5	定期考査 出席状況 ワークシート
2 学期	7月	9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康	①②④	・喫煙や飲酒は、生活習慣病の要因となること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはいけないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解できるようにする。	4	授業に対する関心・意欲・態度
	8月	12. 現代の感染症 13. 感染症の予防 14. 性感染症・エイズのその予防	①②④	・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人的及び社会的な対策を適切に行う必要があることを理解できるようにする。	4	各単元と健康・安全に関する知識・理解 課題解決のための思考・判断
	9月	15. 欲求と適応機制 16. 心身の相関とストレス 17. ストレスへの対処 18. 心の健康と自己実現	①②④	・人間の欲求と適応機制には、様々な種類があること。精神と身体には、密接な関連があること。また、精神の健康を保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることを理解できるようにする。	6	定期考査 出席状況 ワークシート
	10月					
3 学期	12月	19. 交通事故の現状と要因 20. 交通社会における運転者の資質と責任 21. 安全な交通社会づくり	①②④	・交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などが功をなすこと。また、交通事故には責任や補償問題が生じることを理解できるようにする。	5	授業に対する関心・意欲・態度 各単元と健康・安全に関する知識・理解 課題解決のための思
	1月					

	2月	22. 応急手当の意義とその基本	教科書 大修館 現代高等保健体育	①②④	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順があること。また、心臓蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場面があることから、速やかに行う必要があることを理解できるようにする。	5	考・判断 定期考査 出席状況 ワークシート
	3月	23. 心臓蘇生法 24. 日常的な応急手当	副教材 大修館 図説 現代高等保健				

4. 課題・提出物等

ワークシート

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。		現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。
以上の観点を踏まえ①授業への取組み②提出物の評価③定期考査④出席状況を総合的に判断し、評価を行います			

6. 担当者から一言

生活習慣病の要因を探り、自身の普段の生活習慣の改善や健康の保持増進のための新しい生活習慣の確立を実践できるように、現状の課題について学習していきます。規律ある高校生活を送ることができるよう、生活習慣を中心に見直してみましょう。

平成28年度 シラバス（保健体育）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	保健体育（保健）	単位数	1 単位	学年（年次）	2 学年
使用教科書	教科書 大修館 現代高等保健体育				
副教材等	副教材 大修館 図説 現代高等保健				

1. 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であること。また、社会生活における健康の保持増進には、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	2 単元 生涯を通じる健康 1. 思春期と健康 2. 性意識と性行動の選択	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが求められることを理解できるようにする。 ・思春期における心身の発達や健康問題について、特に性的成熟に伴い心理面、行動面が変化することを中心に理解できるようにする。また、これらの変化に対応して、異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報への対処など適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解できるようにする。	3	授業に対する関心・意欲・態度 各単元と健康・安全に関する知識・理解
	3. 結婚生活健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 家族計画と人工妊娠中絶	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題について理解するとともに、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身影響などについても理解できるようにする。また、適切な意志決定や人間関係を築くことが健康な結婚生活の基盤となることにも触れる。	5	課題解決のための思考・判断 定期考査 出席状況
	6. 加齢と健康 7. 高齢者のための社会的取り組み	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解できるようにし、健やかに老いるためには、若いときから、適正な体重、血圧などに関心を持ち、適切な健康習慣を保つこと、定期的に健康診断を受けることなどが重要であることを理解できるようにする。	3	ワークシート
	2. 保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・生涯を通じて健康の保持増進するには、我が国の保健・医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを、介護保険や臓器移植に触れながらも、理解できるようにする。	5	授業に対する関心・意欲・態度 各単元と健康・安全に関する知識・理解
2 学期	3 社会生活と健康 1. 環境と健康 ①環境と汚染と健康	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともある。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解できるようにする。	5	課題解決のための思考・判断
	②環境と健康の対策	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・健康への影響や被害を防止するには、環境の汚染について、発生の防止及び改善の対策が必要であることを環境基本法などの法体制が講じられている点からも理解できるようにする。	4	定期考査 出席状況 ワークシート

3 学 期	12月	2. 環境と食品の保健	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説	①②④	・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものにするよう基準が設定され、それに基づき行われていること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解できるようにする。	5	授業に対する関心・意欲・態度
	1月		現代高等保健				各単元と健康・安全に関する知識・理解
	2月	3. 労働と健康	教科書 大修館 現代高等保健体育 副教材 大修館 図説 現代高等保健	①②④	・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解できるようにする。	5	課題解決のための思考・判断
	3月						定期考査
							出席状況
							ワークシート

4. 課題・提出物等

ワークシート

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
生涯を通じる健康について、生涯の各段階における健康課題への自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。社会生活と健康について、社会生活における健康の保持増進には、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	生涯を通じる健康について、生涯の各段階における健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。社会生活と健康について、社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。		生涯を通じる健康について、生涯の各段階における健康課題の解決に役立つ自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解している。社会生活と健康について、社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策について基礎的な事項を理解している。
以上の観点を踏まえ①授業への取組み②提出物の評価③定期考査④出席状況を総合的に判断し、評価を行います。			

6. 担当者から一言

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育んでいけたら幸いです。高校卒業後の先まで見据え、将来の自分の姿を想像し、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び健康的な社会環境づくりなどが実践できるようしましょう。

平成 28 年度 シラバス（芸術）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	2 単位	学年（年次）	1 学年 選択
使用教科書	『MOUSA 1』（教育芸術社）				
副教材等	プリント等				

1. 学習目標

・音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 指導の重点

・合唱に重点を置き、人の声の純粋な響き（ハーモニー）を感得させるとともに、表現技能を身につけさせ、自己表現できるようにする。
・その曲がつくられた歴史的背景や作者を理解し、創造的な鑑賞態度を養うようにする。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	オリエンテーション ○歌唱	校歌、風になりたいなどの J ポップ数曲、日本の民謡、わらべ歌	①・②・③ 斉唱、合唱	学習内容の説明 ・リズムが正確にとれるようにする。 ・腹式呼吸による発声で歌えるようにする。 ・ハーモニーを感じながら、合唱する。 ・民謡音階等について理解を深める。	1 13	歌唱テスト
	○創作	わらべ歌	②・③	・曲を創作する。	4	創作曲
	○鑑賞	古典派作曲家の音楽 （ベートーヴェン、ハイドン、モーツァルトなど）	①・④	・作曲家の生涯やその楽曲の特徴を理解する。 ・創造的に鑑賞する態度を育てる。	6	感想文
2 学期	○歌唱	世界の民謡、合唱曲、ミュージカル曲	①・②・③ 合唱、歌唱	・正しい発音で歌唱する。 ・ハーモニーを感得しながら合唱する。	12	歌唱テスト
	○器楽	各種の楽器	②・③	・音階を理解し、正しい指使いで曲を演奏する。	10	演奏テスト
	○鑑賞	ロマン派作曲家の音楽 （ワーグナー、ブラームスなど）	①・④	・作曲家の生涯やその楽曲の特徴を理解する。 ・創造的に鑑賞する態度を育てる。	6	感想文
3 学期	○歌唱	ポリフォニーの曲	①・②・③ 合唱	・ハーモニーのバランス良く合唱する。 ・リズムが正確にとれている。 ・曲の全体構造を理解し、正確に表現する。	12	歌唱テスト
	○鑑賞	ポリフォニーの曲、日本の伝統音楽	①・④	・日本の伝統音楽を理解している。	6	感想文

4. 課題・提出物等

各鑑賞曲の感想文は提出。

5. 評価規準と評価方法

①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、その表現意図を明確に持っている。	自己のイメージを持ち、創意工夫した音楽表現するための必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけている。	多様な音楽を理解し、それを形づくっている要素や働きを感じながら、楽曲等の価値を考え、解釈したりして、音楽の良さや美しさを創造的に味わって聴いている。

以上の観点を踏まえ、

・実技テスト ・提出物の内容 ・授業への取り組み状況 などから総合的に判断し評価します。

6. 担当者から一言

合唱曲を中心に授業を構成します。そのことを踏まえ、人の声のみによる純粋なハーモニーを感得し、豊かな表現力を身につけて、音楽を愛する心を育てたいと願っています。

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2 単位	学年（年次）	1 学年 選択
使用教科書	『美術Ⅰ』（光村図書）				
副教材等					

1. 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2. 指導の重点

- ・様々な素材を使い、体験することによって美術に関心を持ち、作品を完成させる力をつける。
- ・対象を観察、鑑賞する力を育て、その形態の美しさに気づく。
- ・授業で作成した作品等は展示する機会を設定する。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	オリエンテーション 鉛筆で描く	ドローイング	①・②・③	オリエンテーション ・画材としての鉛筆をナイフで削らせ、「手仕事」の第一歩を自覚させる。 ・簡単な線による構成でイメージの広がりを感じ取り、様々なタッチを試して、表現の広さを発見する。	1 6	作品の制作過程と授業への取り組み
	色の特徴を知る	色鉛筆等	①・③・④	・色の属性を理解し、混色、重色を作成する。	3	
	静物画を描く	ケント紙等	①・②・③	・モチーフを設定し、その中から表現したい部分を切り取って画面構成し、構図をとる。 ・水彩の種類を選択し、その特徴を生かした彩色をする。 ・線画と空気感近法があることを提示し、作品づくりに生かす。	10	
	立体造形の制作	1cm角のヒノキ材	①・②・③	・公共空間における立体造形の意義を理解する。 ・同型ユニットを相当数作成する。	4	静物画
2 学期	立体造形の制作	1cm角のヒノキ材	①・②・③	・上記で作成した同型ユニットを様々な形に組み立てる。 ・ドーム状の立体を完成させ、照明を施した作品とする。	2	ポスター マグカップ
	ポスターの制作	ケント紙等	①・②・③・④	・適切なテーマを設定し、その設定理由等をグループごとに発表する。 ・文字の多様性に着目し、そのデザインを工夫する。	12	
	マグカップの制作		①・②・③・④	・手に持って使う道具の中から愛着のある道具を見つけ、そのデザインの特徴や優れている点を書き出す。 ・使いやすく、愛着の持てるデザインのマグカップをスケッチする。 ・陶器制作の工程を理解し、成形及び絵付けを行う。	14	
3 学期		レポート	④	・上記で制作したマグカップを使用した感想をレポートにまとめるとともに、グループ内各人の作品について、意見をまとめて発表する。	3	レポート
	人物を描く	ケント紙等		・西洋絵画と日本画の人物表現を対比し、その違いを理解する。 ・相互モデルとなり、デッサンし、立体感を出すように表現に工夫を加える。	15	人物デッサン

4. 課題・提出物等

静物画、立体造形作品、ポスター、マグカップとそのレポート、人物デッサン及び指示する課題レポート

5. 評価規準と評価方法

①美術への関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞活動に主体的に取り組もうとする。	自然や生活の中から感性・想像力を働かせて感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を工夫している。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを味わっている。
以上の観点を踏まえ、 ・提出物の内容 ・道具の扱い方や後始末などのマナー ・授業への取り組み状況 などから総合的に判断し評価します。			

6. 担当者から一言

單元ごとに関連する鑑賞の機会を随時持つ。 実習教科（科目）のため、年間の教材費が必要となります。

教科（科目）	芸術（書道Ⅰ）	単位数	2 単位	学年（年次）	1 学年 選択
使用教科書	書Ⅰ（光村図書）				
副教材等					

1. 学習目標

- ・小・中学校での書写を基本として、文字を素材とした芸術としての書道を学び、古典に基づく表現力及び鑑賞力を身につける。
- ・書道の幅広い活動をととして書を愛好する心情を育て、感性を豊かにし、創造的な表現力を身につける。
- ・日本文化を理解し、生涯学習社会における資質、能力の育成を図る。

2. 指導の重点

- ・書についての関心・意欲を育て、書の伝統文化を学び、主体的に表現したり、鑑賞したりする態度を育成する。
- ・基本的な書写能力を高め、表現力・創造力を育成する。

3. 学習計画

学期（月）	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	オリエンテーション			・用具、用材について理解し、毛筆の使い方を確認する。	1	作品（毎時） 自己評価カード
	漢字仮名交じりの書	筆、紙、墨など 教科書	①・②・③	・芸術としての「書」について理解を深め、自らの意図に基づいて表現を工夫している。	8	
	漢字の書	筆、紙、墨など 教科書	①・②・③・④	・楷書及び隷書の古典の特徴や歴史的変遷について理解し、その良さや美しさを味わう。また、その特徴を捉えて臨書し、表現の技能を身につける。	10	
	漢字仮名交じりの書	筆、紙、墨など 教科書	①・②・③・④	・既習の古典を基盤として、自らの意図に基づいて表現している。	5	
2 学期	漢字の書	筆、紙、墨、印材など 教科書	①・②・③・④	・篆刻について理解を深め、その制作過程について学ぶ。 ・字体の変遷を理解し、印材に表現する。 ・行書の古典の特徴や歴史的変遷について理解し、その良さや美しさを味わう。また、その特徴を捉えて臨書し、表現の技能を身につける。	20	作品（毎時） 自己評価カード 印
	漢字仮名交じりの書	筆、紙、墨など 教科書	①・②・③	・生活の中に存在する書について理解し、実用的な書表現の技能を身につける。	8	
3 学期	仮名の書	筆、紙、墨など 教科書	①・②・③・④	・仮名が成立する過程や仮名の種類を理解し、基本的な表現技能を身につける。 ・平安時代の古筆の特徴について理解し、その良さや美しさを味わうとともに、臨書する。	10	作品（毎時） 自己評価カード
	創作	筆、紙、墨など	①・②・③・④	・自らの意図に基づいて表現を工夫する。 ・各自の作品の特徴を理解し、味わう。	8	

4. 課題・提出物等

毎時間、作品を提出させる。

5. 評価規準と評価方法

①書への関心・意欲・態度	②書表現の構想と工夫	③創造的な書表現の技能	④鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統等に関心を持ち、主体的に創造的活動に取り組もうとする。	書の良さや美しさを感じ、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、効果的な表現の技能を身につけている。	日常生活の書の効用や書の伝統文化を理解し、書のよさや美しさを味わっている。
以上のことを踏まえて、 ・課題の提出状況 ・自己評価カード ・作品表現の工夫 ・授業態度（出席状況含む） などから総合的に評価する。			

6. 担当者から一言

筆に墨をたっぷり含ませ、真っ白な紙に一本の線を書いてみましょう。さて、どんな線が書けたでしょうか。太くて力強い線、細いけど鋭い線、柔らかい線…。一本の線から多様な表現ができること、それが書道の面白さの一つです。活字や印刷の文字が溢れている今日ですが、手書きの文字には人の温かさや感情が生きているのです。芸術書道の活動をとし、表現力・創造力を身につけていきましょう。

教科 (科目)	外国語(コミュニケーション英語 I)	単位数	4 単位	学年 (年次)	1 学年
使用教科書	CROWN English Communication I (三省堂)				
副教材等	CROWN English Communication I 予習サブノート CROWN English Communication I WORKBOOK Standard CROWN English Communication I Listening CD				

1. 学習目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2. 指導の重点

- ①コミュニケーションに関心を持ち積極的に言語活動を行う能力・態度を育てる。
- ②英語で話したり書いたりして情報や考えなどを適切に伝える能力・態度を養う。
- ③英語で聞いたり読んだりして情報や考えなどを適切に理解する能力・態度を養う。
- ④英語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化等を理解する能力・態度を養う。

3. 学習計画

学期（月）		単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学期	4	Lesson 1 Going into Space	CROWN English Communication I ・教科書 ・予習サブノート	①②③ ④	宇宙飛行士若田光一氏の話を通し、地球人としての生き方を考える。 ・基本的な文のパターン ・不定詞 ・動名詞	10	定期テスト 小テスト 授業への取り組み 出欠状況 提出物
		Lesson 2 A Forest in the Sea	・WORKBOOK Standard ・CD	①②③ ④	東京湾のごみ埋め立て地を公園に変える「海の森」プロジェクトの概要を知り、身近な環境保護活動に親しむ。 ・現在完了 ・S+V+O(O=疑問詞節／if 節) ・助動詞のまとめ	10	
	5	Reading Skill 1		①②③ ④	基本的な文のパターン	2	
		Sound Studio 1		①②③ ④	音の連結・脱落・同化	2	
	1 学期中間考査						
	6	Lesson 3 Writers without Borders	CROWN English Communication I ・教科書 ・予習サブノート	①②③ ④	外国語で作家活動をする三人の女性を通して、母語と外国語について考える。 ・関係代名詞 ・分詞の形容詞的用法 ・S+is+C(C=that 節)	12	定期テスト 小テスト 授業への取り組み 出欠状況 提出物
		Lesson 4 Playing by Ear	・WORKBOOK Standard ・CD	①②③ ④	ピアニスト辻井伸行氏の業績を通して、ひとつのことを継続してやることの大切さを知る。 ・関係代名詞 what ・過去完了 ・S+V+O+C(C=原型不定詞)	12	
	1 学期期末考査						
	7	Reading Skill 2	CROWN English Communication I ・教科書 ・予習サブノート	①②③ ④	フレーズリーディング	2	定期テスト 小テスト 授業への取り組み 出欠状況 提出物
		Sound Studio 2	・WORKBOOK Standard ・CD	①②③ ④	文の区切り	2	

2 学 期	9	Lesson 5 Food Bank		①②③ ④	フードバンク活動を知り、貧困やボランティア活動について考える。 ・関係副詞 ・S+V+O+C(C=分詞) ・S+V+C(C=原型不定詞)	12			
		Lesson 6 Roots and Shoots		①②③ ④	動物学者・環境学者のジェーン・グードル博士のインタビューを通して、動植物との共生を考える。 ・分詞構文 ・it～that… (形式主語) ・同格	12			
		Reading Skill 3		①②③ ④	談話標識	2			
		Sound Studio 3		①②③ ④	強勢とリズム	2			
	2 学期中間考査								
	10	Lesson 7 Diving into History	CROWN English Communication I ・教科書 ・予習サブノート ・WORKBOOK Standard ・CD	①②③ ④	海洋考古学学者フランク・ゴディオ氏の活動を通して、一見華やかな世界が綿密な計画と地道な活動の積み重ねであることを知る。 ・ seem to ～; it seems that～ ・受動態の完了形 ・形式目的語 it	12	定期テスト 小テスト 授業への取り組み 出欠状況 提出物		
		11		Lesson 8 Not So Long Ago	①②③ ④	20 世紀を象徴する写真を見て、歴史から何を学びその教訓をどう生かせるかを考える。 ・ 仮定法過去 ・ S+V+O1+O2(O2=疑問詞節) ・ 付帯状況の with		12	
				Reading Skill 4	①②③ ④	パラグラフの構成		2	
				Sound Studio 4	①②③ ④	イントネーション		2	
	2 学期期末考査								
	3 学 期	12	Lesson 9 Paddling a Long?	CROWN English Communication I ・教科書 ・予習サブノート ・WORKBOOK Standard ・CD	①②③ ④	インターネット時代を生きる上で、特に情報収集などにおけるポイントを知る。 ・部分否定 ・ use to～; would～ ・助動詞+受け身	14	定期テスト 小テスト 授業への取り組み 出欠状況 提出物	
			1		Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown	①②③ ④	漫画ピーナッツを通して、本当の強さとは何かを考えるとともに、人を思いやることの大切さを知る。 ・ 仮定法過去完了 ・ no matter +疑問詞 ・ be to 不定詞		14
					2	Optional Lesson Two Dreamers, One Dream	①②③ ④		キング牧師とオバマ大統領のスピーチを通して、彼らが目指した理想の世界を知る
			学年末考査						

4. 課題・提出物等

課題として、ワークブックを用いる。また、プリント等での課題も随時課す。

5. 評価規準と評価方法

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語で聞いたり読んだりして情報や考えなどを適切に理解している。	英語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化などを理解している。
以上の点をふまえ ・授業の 取り組み（授業態度・ペアワークや発表の様子、参加状況など） ・ワークブックなどの提出物 ・定期テスト ・小テスト などから総合的に評価する。			

6. 担当者から一言

この科目では、英語を読む・書く・聞く・話すという4技能を総合的に学びます。英語に触れる時間を多く取ることを念頭に置き授業を行う予定です。間違いを恐れず、積極的な参加を心がけてください。加えて、疑問点は質問して必ず解消すること。

平成28年度 シラバス（家庭）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	家庭（家庭基礎）	単位数	2単位	学年（年次）	1学年
使用教科書	教科書 第一学習社 高等学校 家庭基礎 とともに生きる・未来をつくる				
副教材等					

1. 学習目標

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる

2. 指導の重点

私たちの生活に関連するさまざまな分野の学習を通して、視野を広げ、柔軟な考え方を身につけ、これからの人生を「よりよく生き抜く力」をつけることを目指します。また、生活技術の定着を図るため、できるだけ多くの実験・実習を取り入れていきます。

3. 学習計画

学期（月）		単元名	教材	評価の観点	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1	4	家庭基礎を学ぶにあたり		①②	・科目および授業内容説明 ・諸連絡および注意	2	意欲・態度 出席状況
	5	1編 1章 青年期 自立して生きる	教科書 副教材 ワークシート	①②④	・自己理解を深め、これからの「自分」についてさらに考えていきます。 ・夫婦別姓や家事労働に対する考え方を深め、家族に関する法律や男女共同参画社会について学びます。	10	
	6	2章 装う 衣生活の自立と管理計画	被服製作	①③④	・被服の選択と管理の基本について学び、理解を深めます。 ・被服実習を通してミシン縫いの基礎を学び、作品完成の達成感を味わいます。	10	
2	7	2編 1章 食べる 食生活の自立と健康安全	教科書 副教材 ワークシート	①②③④	・朝食の重要性について理解を深め、健康を保つために自分は何をどれだけ食べたらいいか、具体的に学びます。また、現代の食の問題についても考えていきます。 ・5大栄養素を中心に食品にはどのような栄養が含まれているか理解し、毎日の食事の栄養面に意識を持てるようにします。 ・食が便利になっているなか、食中毒、食品添加物や遺伝子組み換え等、食の衛生と安全について理解を深めます。 ・調理の基礎（和洋中、焼く、煮る、蒸す、炒める）を身につけ、調理技術の定着を図ります。 ・家族とのコミュニケーションを大切に家庭や地域の食文化についてまとめ、考えを深めます。	25	定期考査
	8						実験・実習 レポート
	9						実技テスト
	10						ワークシート
	11						夏休み課題
	12						
3	1	1編 2章 壮年期	教科書 副教材 ワークシート	①②④	・乳幼児の心身の発達と保育について理解を深め、親の立場から適切な子どもとの関わり方について学びます。また、最近、国が力をいれている社会的支援についても理解を深めます。 ・高齢者の心身の特徴に対して理解を深め、年金や介護保険制度について学びます。高齢者疑似体験を行います。	17	
	2	3章 高齢期					
	3	4章 消費を考える		①②④	・当面の教育費について考え、また将来に備えて消費者としての自立を目指し、	6	

					クレジットカードの使い方や金利のしくみ、法律についても学びます。		
--	--	--	--	--	----------------------------------	--	--

4. 課題・提出物等

ワークシート、実験・実習時レポート、実技テスト、被服作品、夏休み課題 等

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
家庭や地域の生活に関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	家庭生活にかかわる問題点や課題を見つけ、生活を創造する能力を身につけている。	学習内容を生かして衛生・安全面に配慮し、効率的に実習や作業を行なうことができる。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。
以上の観点を踏まえ①授業への取り組み②提出物の評価③実技試験④定期考査⑤出席状況を総合的に判断し、評価を行います			

6. 担当者から一言

生活の自立に必要な知識や技能を身につけるとともに、さまざまな体験や情報を元に、視野を広げ、自己の可能性を広げられるような有意義な時間になるよう精一杯授業を作っていくつもりです。みなさんも自分自身を高めるつもりで1年間積極的に取り組んでくれることを期待します。

平成28年度 シラバス（情報）

学番 27 新潟県立村上高等学校

教科（科目）	情報(社会と情報)	単位数	2 単位	学年（年次）	第2 学年
使用教科書	高校社会と情報(実教出版株式会社)				
副 教 材 等	高校社会と情報 学習ノート(実教出版株式会社)				

1. 学習目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

2. 指導の重点

これからの情報化社会に適応するための方法を考えていく。特に、誹謗・中傷などコンピュータ犯罪の加害者・被害者にならないための知識を身につけると同時に、情報を発信・収集する側の判断力・自制心・責任能力について深く考察し、ルール・モラル・マナーを身につけ、実践していけるようにする。また、目的に応じて情報を統合し、効果的な表現方法を考え、コンピュータを使い作成していく。

3. 学習計画

学期 (月)	単 元 名	教材	評価 の 観点	学習活動（指導内容）	時間	評価 方法
第 1 学期	4	1 章 教科書 副教材 情報 社会 プリント	①	・情報や情報社会についての意味をと情報の特徴を理解するとともに情報社会がもたらした生活やビジネスの変化について学ぶ。	7 h	定期 考查
			②	・インターネットの特質と個人の責任と心構え、コンピュータを利用した犯罪と、被害者にならないための心構え、コンピュータの健康への影響や、情報格差への対応について学ぶ。		課題
			④	・メディアの特徴と、メディアリテラシー、メディアを効果的に取り扱うための能力を身に付ける。 ・マスコミにおける広告の役割、番組の内容とコマーシャルの目的の関係について理解する。 ・情報の特性や相手の状況を考慮したメディアの選択について考える。 ・個人情報とその保護などについて調べ、個人情報の流出の実態とその防止方法について学ぶ。 ・コンピュータやコミュニケーション手段の発達、コンピュータと周辺装置の構成、ソフトウェアについて学ぶ。		授業 態度
第 2 学期	5	2 章 教科書 副教材 コミュ ニケー ション	②	・コミュニケーションの形態や、その変化について学ぶ。	10 h	定期 考查
			③	・電子メールにおける機種依存文字や添付ファイルについて理解し、電子メールの同報機能や誤解を招かない表現などについて理解する。		
			④	・ネットワークの構成。様々な種類のネットワークの形態について学び、プロトコルやファイル形式について理解を深め、データ記述の共通化やプラットフォームの共通化について学ぶ。 ・IP アドレス、ドメイン名、名前解決、パケット交換、回線の種類について学ぶ。 ・Web ページの閲覧の仕組み、電子メールの送受信の仕組み、Web ページを使ったサービスなどについて学ぶ。 ・ユビキタス技術を活用した情報システム、インターネットを利用した合意形成について学ぶ。 ・ネットワークを利用した情報の共有化・協働化、分散処理や仮想化の技術について学ぶ。 ・バリアフリーやユニバーサルデザイン、遠隔医療や遠隔教育について学ぶ。		
第 3 学期	6 8	3 章 教科書 副教材 情報 安全 プリント	①	・パスワード、コンピュータウイルスとウイルス対策ソフト、不正アクセスとファイアウォール、セキュリティポリシーやアクセス制御、VLAN、暗号化やフィルタリング、電子透かしなどの技術や仕組みについて学ぶ。	11 h	定期 考查
			②	・個人情報の保護に関する法律や情報公開について学ぶ。		
			③	・商取引や不正アクセス、プロバイダなどに関する法律について学ぶ。 ・知的財産権の種類、産業財産権、著作権者の権利と伝達者の権利、著作権の侵害例などを学ぶ。		
第 4 学期	9 11	4 章 教科書 副教材 デ ィ ジ タ ル 化 プリント	②	・アナログとデジタルの意味、情報量の単位、AD、DA コンバータについて学ぶ。	17 h	課題
			③	・ペイント系ソフト、ドロー系ソフト、画像処理ソフトについて学ぶ。		
			④	・2進数、10進数、16進数、文字コードについて学ぶ。 ・標本化、量子化、符号化、標本化周波数と量子化の段階数について学ぶ。 ・加法混色と減法混色、色のデジタル表現、画像のデジタル化の仕組み、階調や解像度、動画再生ソフトについて学ぶ。 ・圧縮の必要性和形式、圧縮の仕組みについて学ぶ。 ・音声や画像のデータ量、プリンタの解像度、通信速度、2進数の四則計算の計算問題を解く。		
第 5 学期	12 3	5 章 教科書 副教材 問 題 解 プリント	①	・問題解決の意味と方法、手順を理解する。	25 h	定期 考查
			②	・情報収集の方法や適切な検索のキーワード、AND・OR・NOT 検索などの使い方などを学ぶ。		課題
			③	・情報を階層化し整理する方法、データベースや、情報の共有と整理について理解を深める。 ・表計算ソフトの基本的な使い方を学び、基本的な関数について理解する。 ・分析しやすいデータ形式について学び、情報の視覚化、グラフから情報を読み取る際のポイント、グラフによる印象の違いや誤解のない表現について学ぶ。		授業

		決		④	・問題の明確化、情報の収集、整理・分析、解決策の検討を行う。 ・論文の作成を題材にして論理的な文章の構成について学ぶ。 ・情報を効果的にわかりやすく伝える工夫、情報を適切に表現する仕方を学ぶ。 ・プレゼンテーション、Web ページの目的や留意点について学ぶ。		態度
--	--	---	--	---	--	--	----

4. 課題・提出物等

プリントや学習ノートを使い、理解度および達成度について確認する。問題解決の課題やコンピュータを使つての課題。
--

5. 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
情報や情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。
定期考査、授業の取り組み(授業態度、討論の様子、学習活動への参加状況)、提出物などから総合的に判断する。			

6. 担当者から一言

情報化社会の中で犯罪に巻き込まれたり、他人を傷つけることがないようにするためのルールを知り、モラルやマナーを身につけるてほしいと思います。きっと役に立つ重要な教科になるはずです。最新の話題や身近な話題等も取り上げていきますので、新聞等をよく読んでおいてください。 また、いろいろな印刷物を目にして気に留めておき、効果的な表現方法はどのようにすればよいかを普段から考えるように心がけておいてください。
--